

平成30年度 第2回 名古屋市都市計画審議会

その他 ア

新たな時代に対応した都市づくりのあり方について（中間報告）

アー 1

その他ア

(経緯、専門部会委員、今後の予定)

スライド

これまでの経緯、部会委員名簿、今後の予定

3～5

3 これまでの経緯

		年月日	内 容
平成29年度 第3回 都市計画審議会		平成30年1月31日	・現行プランの中間評価（報告） ・新たな時代に対応した都市づくりのあり方（諮問）
新たな都市づくり検討部会	第1回	平成30年5月25日	・これまでの取組、取り巻く状況 ・めざすべき方向性 ・都心部のまちづくりの方向性
	第2回	平成30年7月30日	・都市づくりの目標、方針 ・将来都市構造の考え方 ・都心部における拠点のまちづくり
	第3回	平成30年9月19日	・将来都市構造 ・都心部における軸、界隈、拠点連携のまちづくり

※第4回部会についても、平成30年11月14日に開催

4 新たな都市づくり検討部会 委員名簿

氏 名	役職等	備 考
江口 忍	名古屋学院大学現代社会学部 教授	
高取 千佳	名古屋大学大学院環境学研究科 助教	
徳山 美津恵	関西大学総合情報学部 教授	
秀島 栄三	名古屋工業大学大学院工学研究科 教授	・都市計画審議会委員
福島 茂	名城大学副学長・都市情報学部 教授	・都市計画審議会会長 ・部会長
松本 幸正	名城大学理工学部 教授	
村山 顕人	東京大学大学院工学系研究科 准教授	
吉村 輝彦	日本福祉大学国際福祉開発学部 教授	

（敬称略・五十音順）

5 今後の予定

年度	事項	内容
平成30年度	市民ワークショップ	・名古屋のまちのこれからについてのディスカッション
	平成30年度 第3回 都計審	・中間とりまとめ（都市づくりのあり方） ※将来都市構造にかかる部分については、次期総合計画に登載予定 ・とりまとめ（都心部のまちづくり）
	第5回 部会	・分野別の施策
	都心まちづくりビジョン公表	
平成31年度	第6回 部会	・答申素案
	平成31年度 第1回 都計審	・答申素案（中間報告）
	第7回 部会	・答申案
	平成31年度 第2回 都計審	・答申
	市民意見募集（パブリックコメント）	・都市計画マスタープラン案
平成32年度	名古屋市都市計画マスタープラン公表	

アー 2

そ の 他 ア

(これまでの専門部会における検討状況)

スライド

1	次期名古屋市都市計画マスタープランについて	7～10
---	-----------------------	------

2	主な市を取り巻く状況	12～24
---	------------	-------

3	課題と対応	26～29
---	-------	-------

4	都市づくりの目標	31
---	----------	----

5	将来都市構造の考え方	33～36
---	------------	-------

6	分野別の都市づくりの方針	38～41
---	--------------	-------

7	将来都市構造	43～47
---	--------	-------

8	都心部のまちづくりについて	49～65
---	---------------	-------

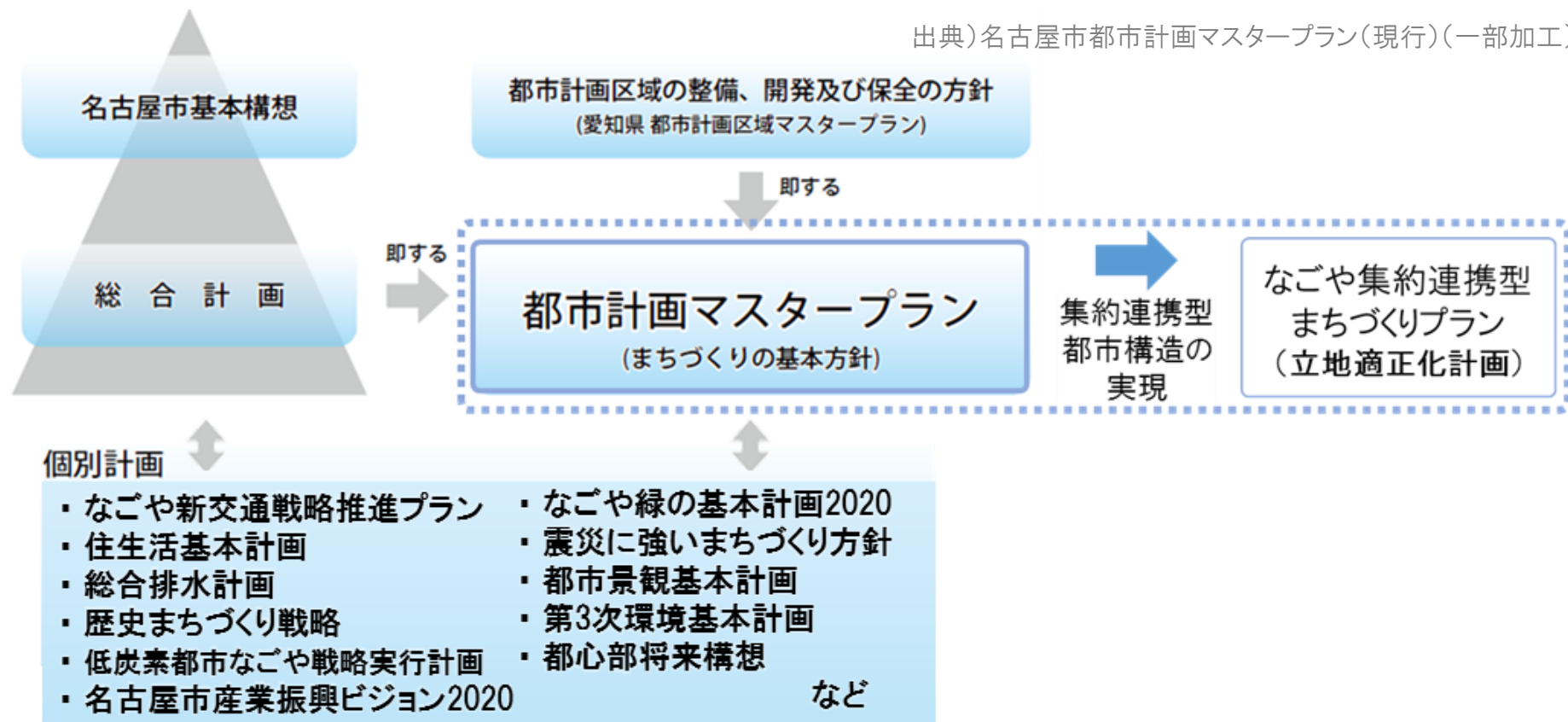
7 プランの位置づけ

都市計画法第18条の2に規定される

「市町村の都市計画に関する基本的な方針」

- ・ 市町村の基本構想並びに都市計画区域の整備、開発及び保全の方針に即して定める。
- ・ 市町村が定める都市計画は、この基本的な方針に即したものでなければならない。

出典）名古屋市都市計画マスタープラン（現行）（一部加工）



8 プランの策定目的

策定の目的

出典）名古屋市都市計画マスタープラン（現行）

都市計画マスタープランの策定の目的は、次の2点です。

長期的な視点に立ち、将来の都市像やまちづくりの方向性を示します

地域住民・企業・行政などの協働によるまちづくりを進めるガイドラインとします

9 プランの目標年次

概ね20年の長期的な見通しのもとに、

2030年 を目標年次とする
(2020年策定予定)

2020年：東京オリパラ、名二環全線開通

2022年：生産緑地2022年問題、団塊世代が後期高齢者に

2025年：大阪万博開催？

2026年：アジア競技大会開催

2027年：リニア開業（名古屋-東京間）

2037年？：リニア開業（大阪-名古屋間）

10 プランの対象区域

名古屋市全域を基本とし、
広域的な交流・連携についても考慮



ア－2

その他ア

(これまでの専門部会における検討状況)

スライド

1	次期名古屋市都市計画マスタープランについて	7～10
2	主な市を取り巻く状況	12～24
3	課題と対応	26～29
4	都市づくりの目標	31
5	将来都市構造の考え方	33～36
6	分野別の都市づくりの方針	38～41
7	将来都市構造	43～47
8	都心部のまちづくりについて	49～65

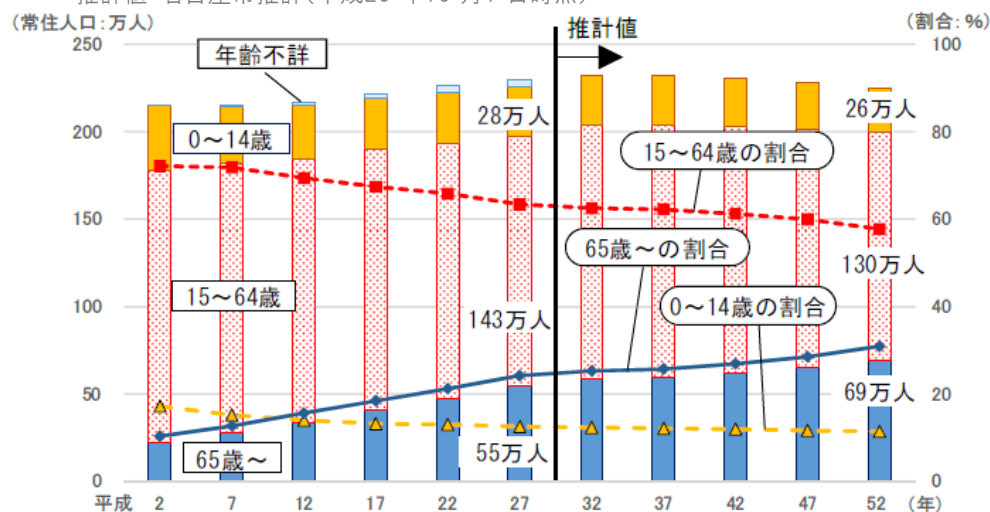
12 人口構造・動態の変化

- 年少人口および生産年齢人口の構成比率が低くなり、ますます高齢者人口の比率が高まっていく
- 高齢世帯の占める割合が増加してる
- 本市の人口は平成34年に減少に転じる見込みで、広域で見れば人口減少はより顕著である
- 本市との社会増減数の関係では、関東以外の地区では社会増となっており国外からの社会増が最多
- 対関東においては、平成24年度以降、社会減が拡大傾向

●本市の年齢3階級別人口

出典)実績値:統計なごやweb 版(国勢調査結果より作成)

推計値:名古屋市推計(平成29年10月1日時点)

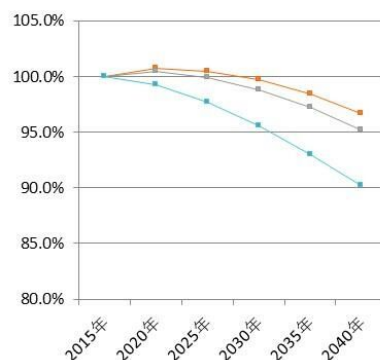


●東海三県一市人口増減率(推計)

出典)「日本の将来推計人口」(国立社会保障・人口問題研究所)

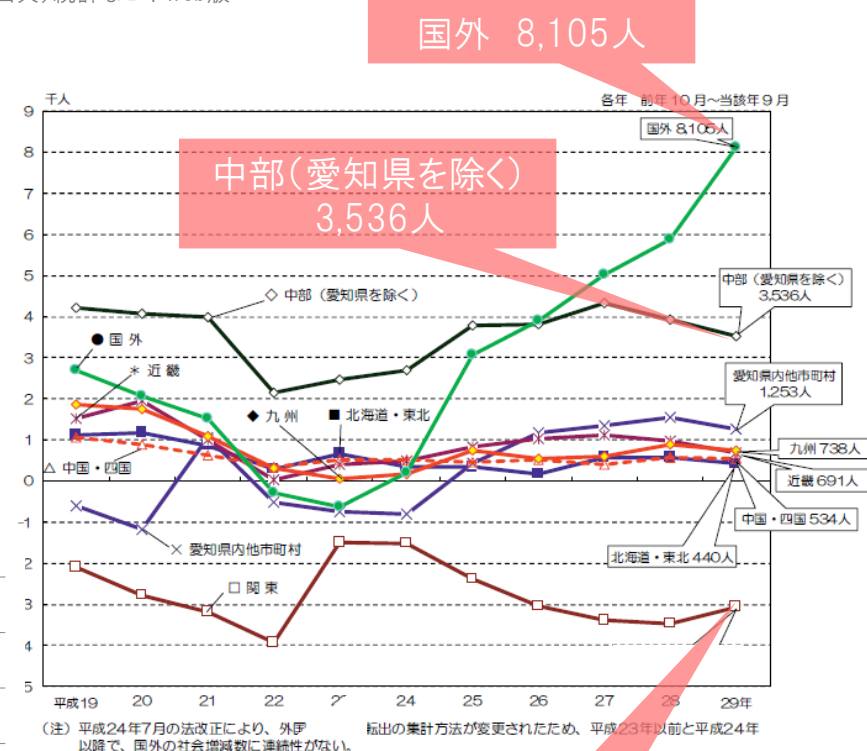
*)2015年の人口を100とした場合の指数の推移

名古屋市 名古屋都市計画区域
3県合計



●地域別本市との社会増減数の推移

出典)統計なごやweb版



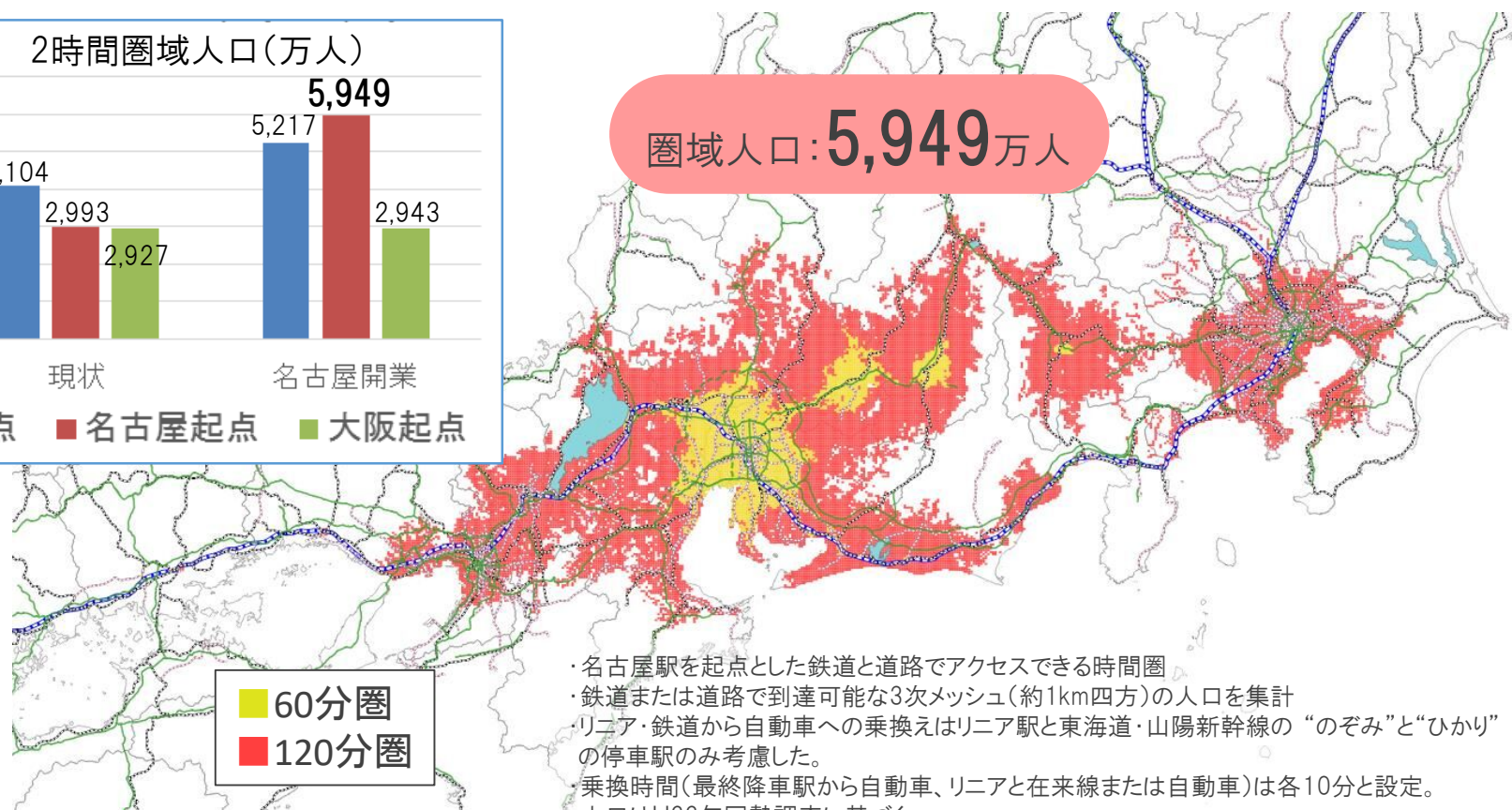
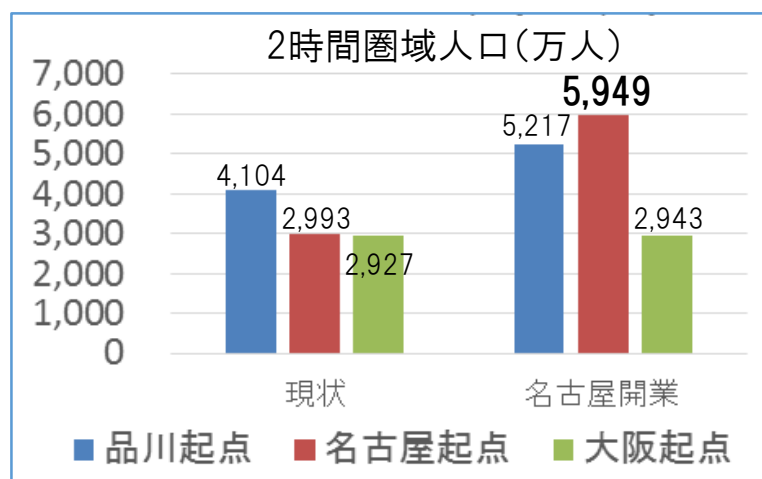
13 リニア中央新幹線開業、スーパー・メガリージョン形成

■リニア開通により三大都市圏それぞれの交流圏域は大きく拡大

■とりわけ、名古屋駅起点とした2時間圏域人口は約6,000万人と最大規模になると試算

●交流圏域の拡大のイメージ(名古屋-品川開業時)

出典)リニア時代の名古屋の都市戦略(名古屋都市センター)



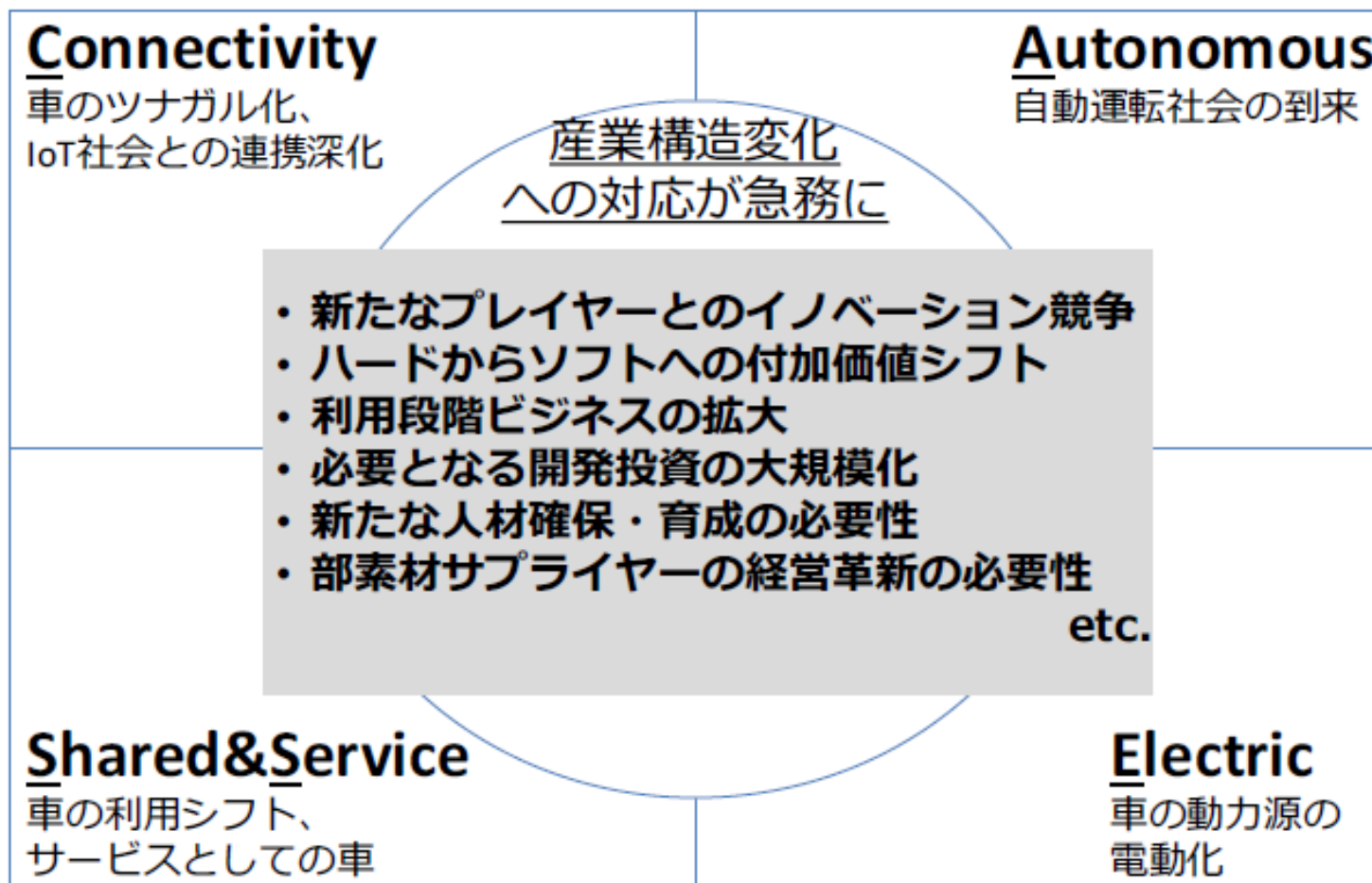
- ・名古屋駅を起点とした鉄道と道路でアクセスできる時間圏
 - ・鉄道または道路で到達可能な3次メッシュ(約1km四方)の人口を集計
 - ・リニア・鉄道から自動車への乗換えはリニア駅と東海道・山陽新幹線の“のぞみ”と“ひかり”の停車駅のみ考慮した。
 - ・乗換時間(最終降車駅から自動車、リニアと在来線または自動車)は各10分と設定。
 - ・人口はH22年国勢調査に基づく。
 - ・名古屋駅から各リニア駅までの所要時間については、岐阜県「岐阜県リニア中央新幹線活用戦略」(H26.3)を参考に以下の値を用いた。
- 岐阜県駅: 13分、長野県駅: 23分、山梨県駅: 40分、神奈川県駅: 59分、品川駅: 40分

14 産業構造の転換、自動車産業の変革

- イノベーションが産業構造や就業構造に劇的な変化をもたらす可能性
- 自動車産業においては、ツナガル・自動化・利活用・電動化（いわゆるCASE）の潮流が産業構造を大きく変え得る

●自動車産業を取り巻くメガトレンド（CASE）

出典）経済産業省の自動走行とデジタルガバメントに向けた取り組み（経済産業省）

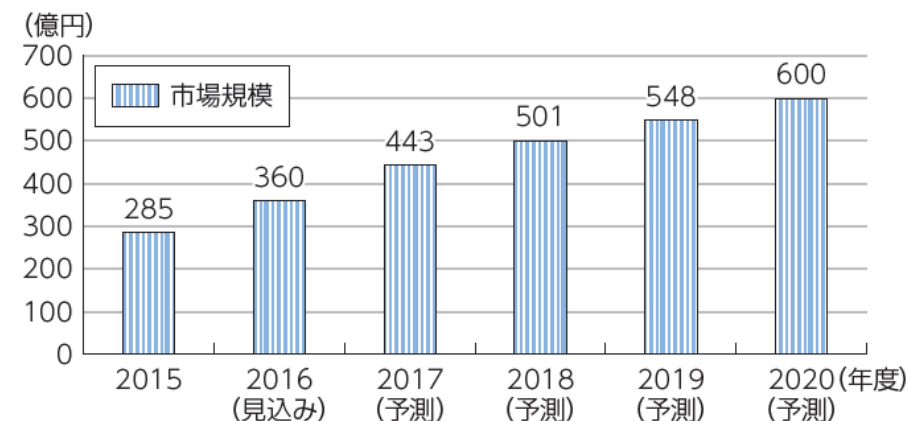


15 価値観や働き方等の多様化

- シェアリングエコノミーの国内市場規模は、2015年度に約285億円であったものが、2020年までに600億円まで拡大すると推計
- ICTを活用し、時間と場所にとらわれないテレワークを実施している企業は近年上昇傾向
- 女性の社会進出とともに、共働き世帯の割合も増加

●シェアリング・エコノミーの国内市場規模推移と予測

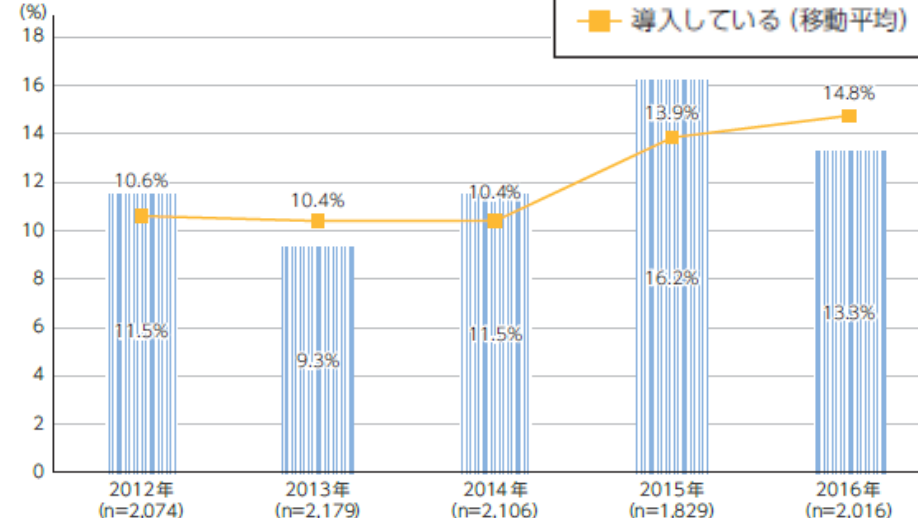
出典)スマートフォン経済の拡大をもたらす新サービス(総務省)



(注) 本調査におけるシェアリングエコノミーサービスでは、音楽や映像のような著作物は共有物の対象としていない。また、市場規模は、サービス提供事業者のマッチング手数料や販売手数料、月会費、その他サービス収入などの売上高ベースで算出した。

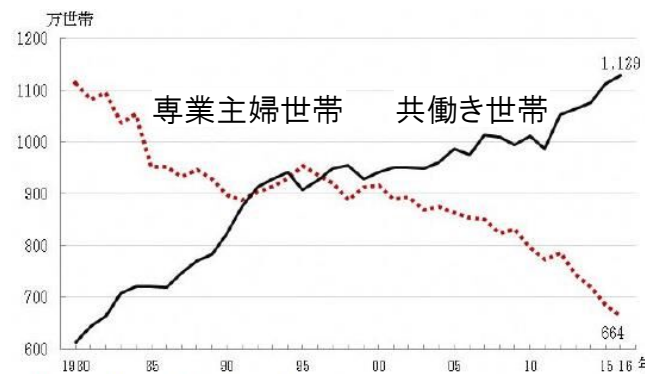
●テレワークの導入率推移

出典)平成28年版情報通信白書(総務省)



●全国の共働き世帯の増加

出典)国勢調査(総務省)

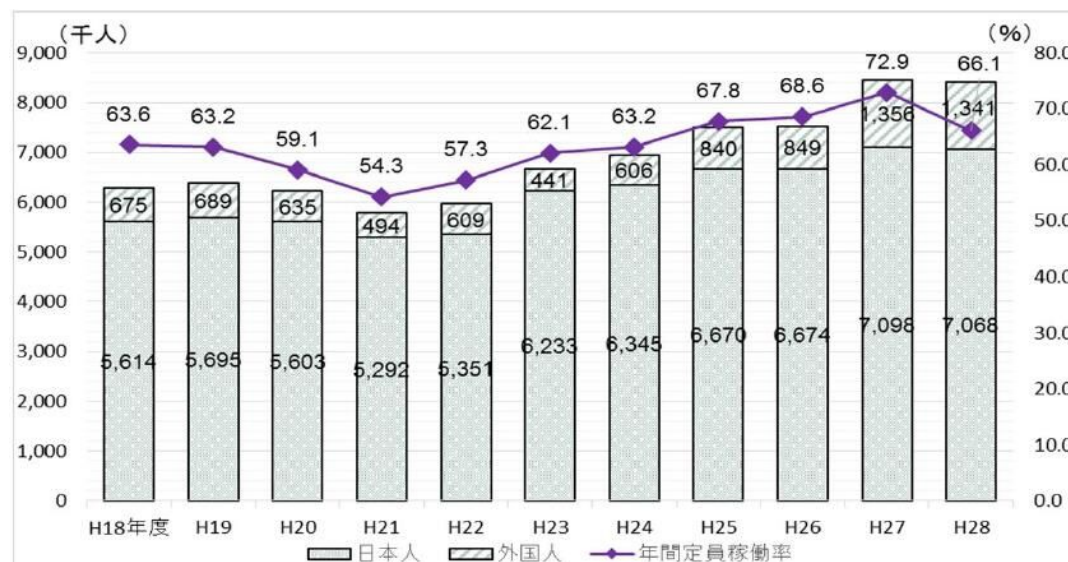


16 観光需要の高まり

- 国内外からの本市への観光入込客、宿泊客数が年々増加。特に、外国人宿泊客数の増加が顕著となっており、宿泊施設の稼働率も年々上昇
- 市内の宿泊施設の収容人数は増加傾向

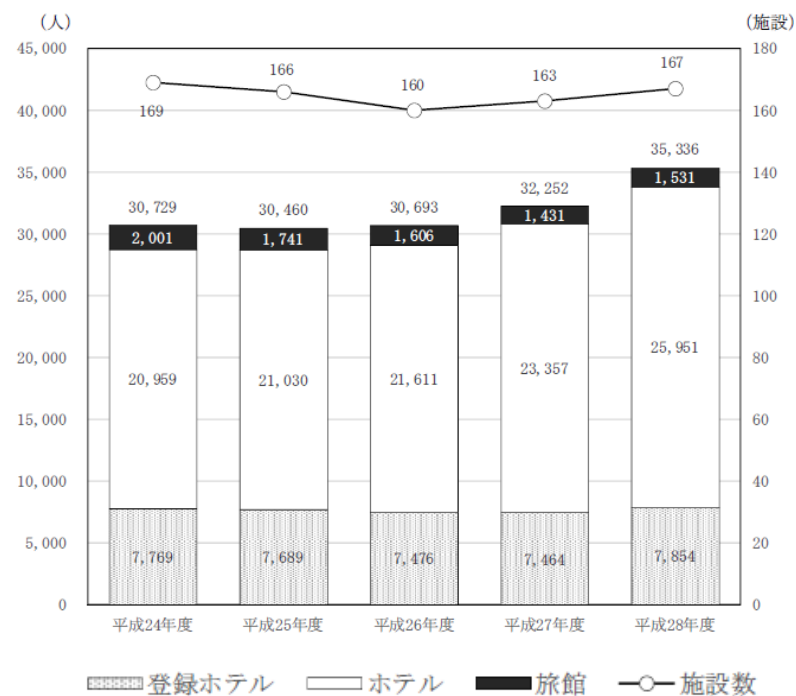
●本市における宿泊施設の宿泊客数 延べ人数の推移

出典)名古屋市観光客・宿泊客動向調査



●市内ホテル・旅館収容人数及び施設数推移

出典)名古屋市観光客・宿泊客動向調査

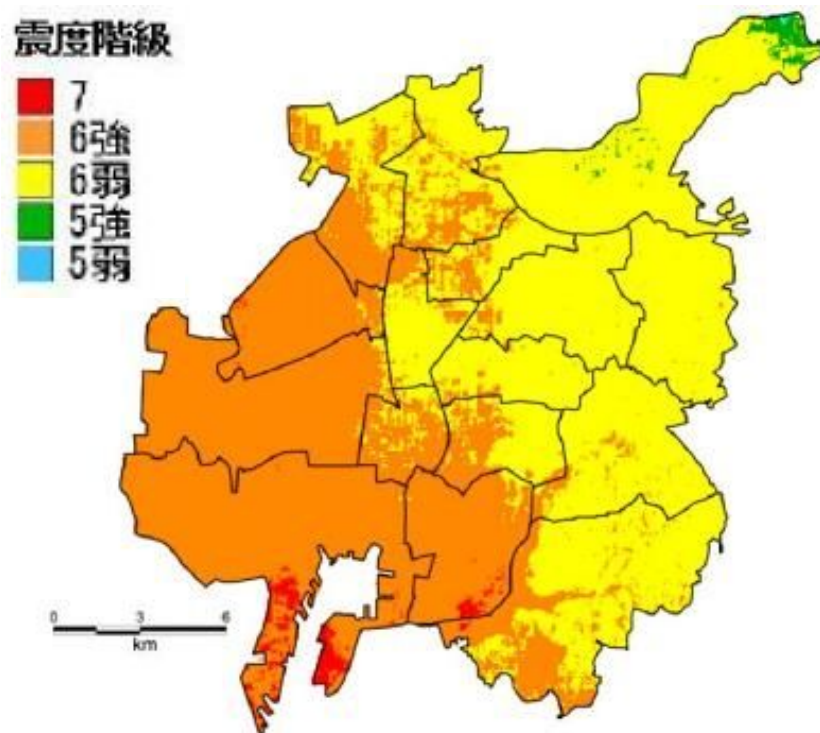


17 激甚化する自然災害

- 南海トラフにおいて、M8～9クラスの地震が発生する確率は、30年以内に70～80%と予測されている。
- 本市の震度分布の想定は、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの場合、市域ほぼ全域に震度 6弱、6強、港区をはじめとした一部地域で震度7とこれまでに経験のしたことのない被害の発生が想定
- 豪雨災害について、約30年前と比較して豪雨の発生回数が顕著に増加するなど、短時間に強い雨が降る傾向が強まっている

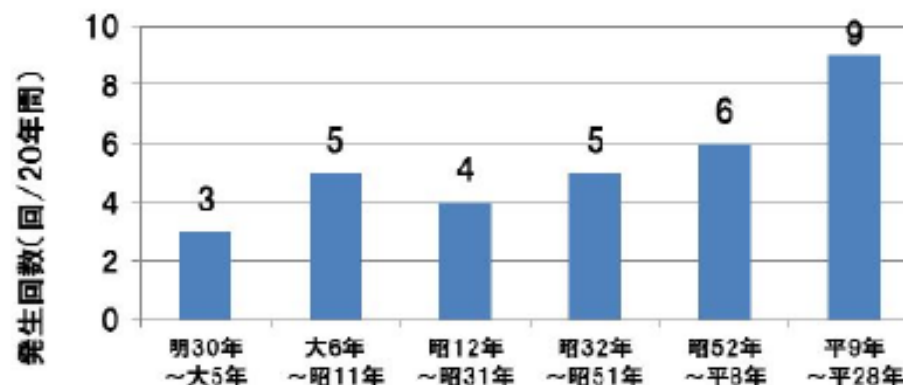
●あらゆる可能性を考慮した最大クラスの震度分布

出典)南海トラフ巨大地震の被害想定について-震度分布、津波高等-(名古屋市)



●本市の1時間降水量50mm以上の年間発生回数

出典)名古屋市地方気象台観測地より名古屋市作成



18 都市の持続性に対する意識の高まり（SDGs等）

■2015年の国連サミットで採択されたSDGsの達成に向けた取り組みが国レベルで進行中

●持続可能な開発目標(SDGs)

出典)外務省資料

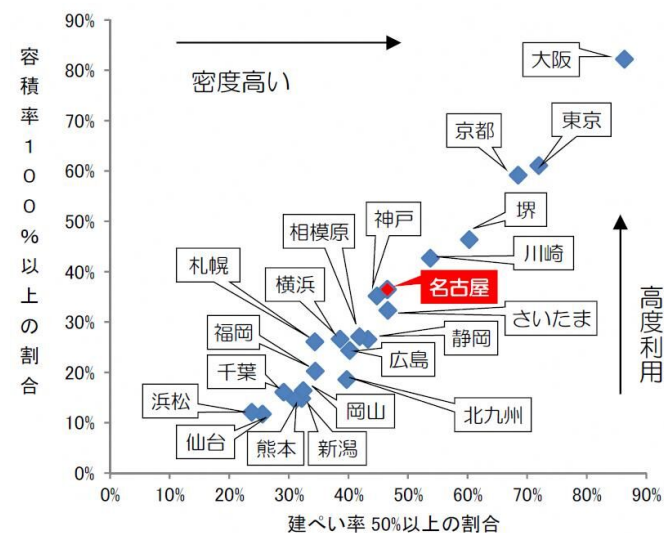


19 時間的・空間的・経済的なゆとり

- 名古屋市は大都市である反面、空間的なゆとりがあり、安定した雇用もある。圏域で見れば通勤時間も短い。
- 空間的なゆとりなどが親との同居率の高さにも表れていると考えられる。

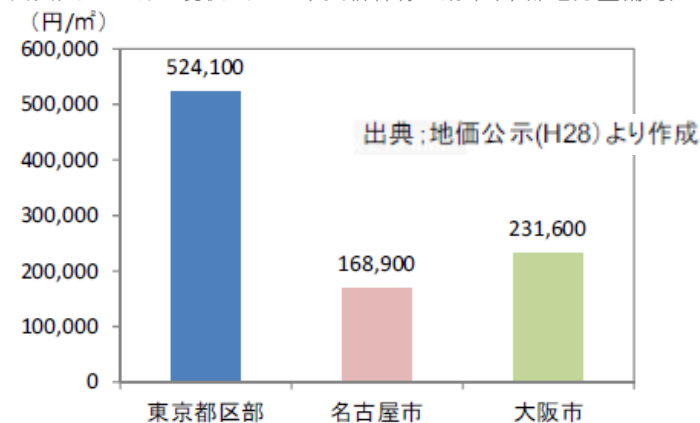
●建ぺい率、容積率の使用状況

出典)住宅・土地統計調査(H25)より名古屋市作成



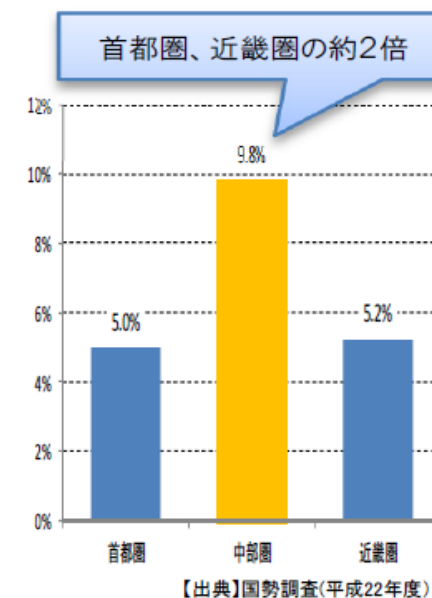
●住宅地平均価格

出典)ものづくりの現状とニア中央新幹線の効果(中部地方整備局)



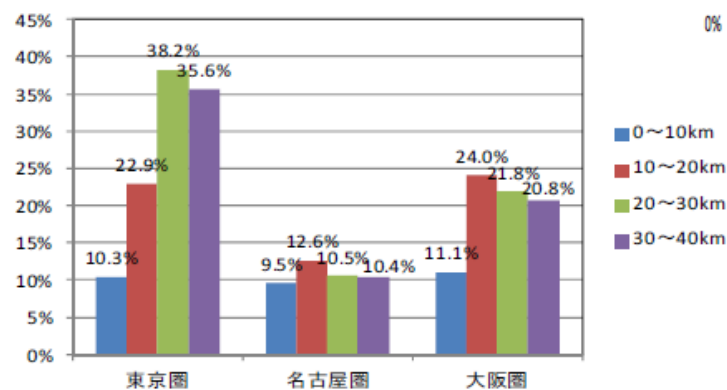
●三世代同居比率

出典)新たな中部圏広域地方計画 概要版(中部地方整備局)



●距離帯別通勤時間1時間以上の割合

出典)ものづくりの現状とニア中央新幹線の効果(中部地方整備局)



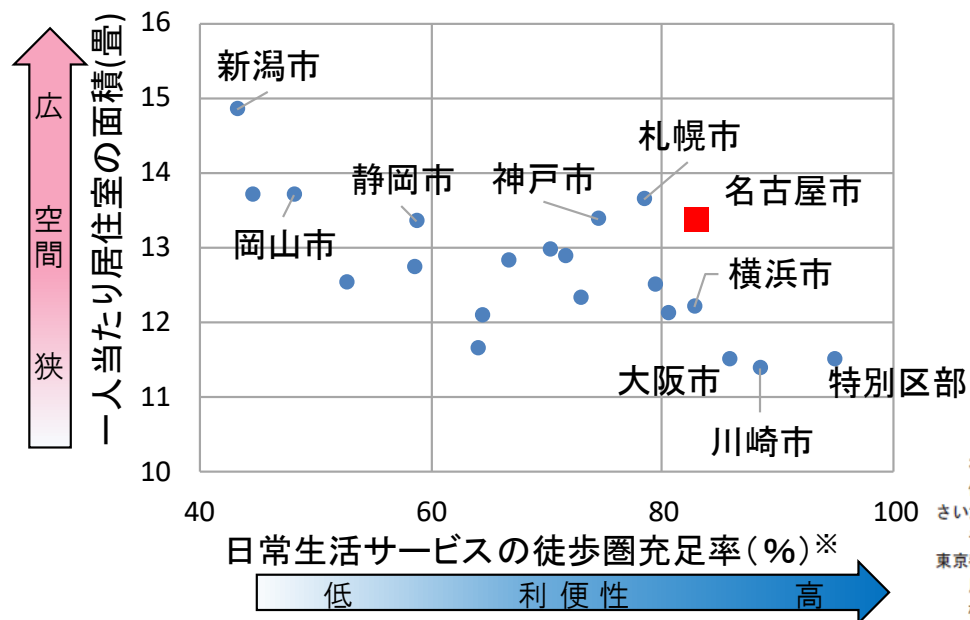
出典:総務省「住宅土地統計調査」(H25)

20 充実した都市基盤・施設

■名古屋市は道路をはじめとした都市基盤が充実し、また、商業・医療・福祉等の日常生活サービスが充実するなど生活利便性が高い。

●日常生活サービスの利便性

出典)都市構造評価ハンドブック(H26.8)、住宅・土地統計調査(H25)より
名古屋市作成

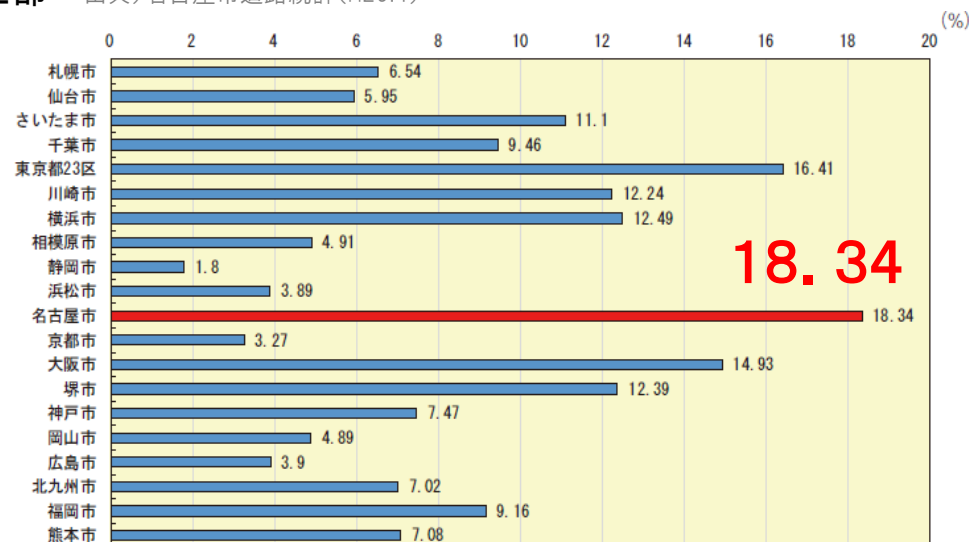


※日常生活サービスの徒歩圏充足率

商業、医療、福祉、公共交通(30本/日以上)の各施設の徒歩圏(半径800m)に居住する市民の割合

●道路率

出典)名古屋市道路統計(H29.4)



21 豊富な歴史資源、魅力的な緑・水空間

■名古屋市は三英傑ゆかりの地であり豊富な歴史資源を有し、また広域的な集客力を有する魅力的な緑・水空間を有す。

●市内の主な歴史資源、大規模な公園、水辺空間



22 広域圏に見る豊富な観光資源

■圏域で見れば、風光明媚な自然環境や歴史・文化資源を多く有しており、ストーリー性のあるプロモーションも展開されている。その中で名古屋市は各コースのハブ的な役割を担っている

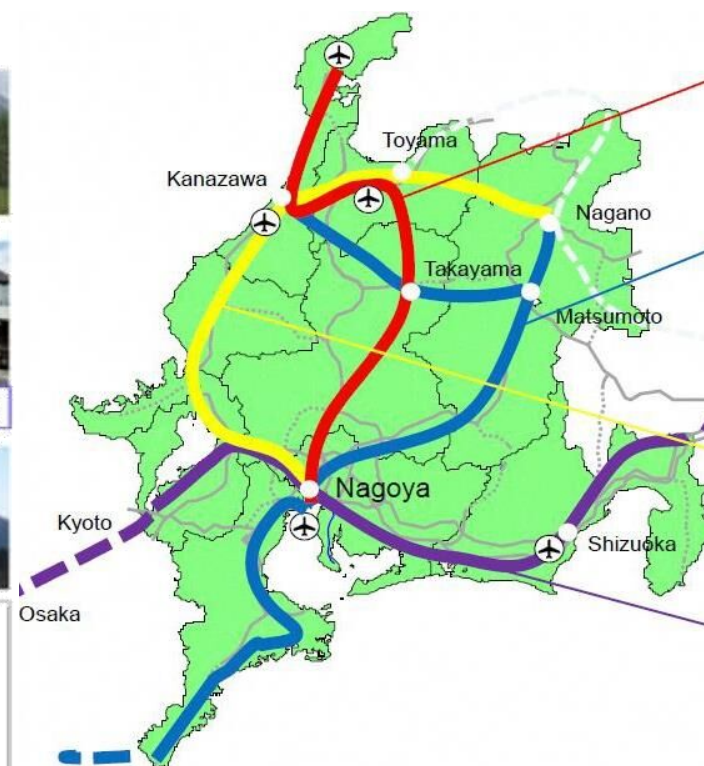
●圏域における観光資源

出典)名古屋大都市圏有識者検討会議



●昇龍道モデルコース

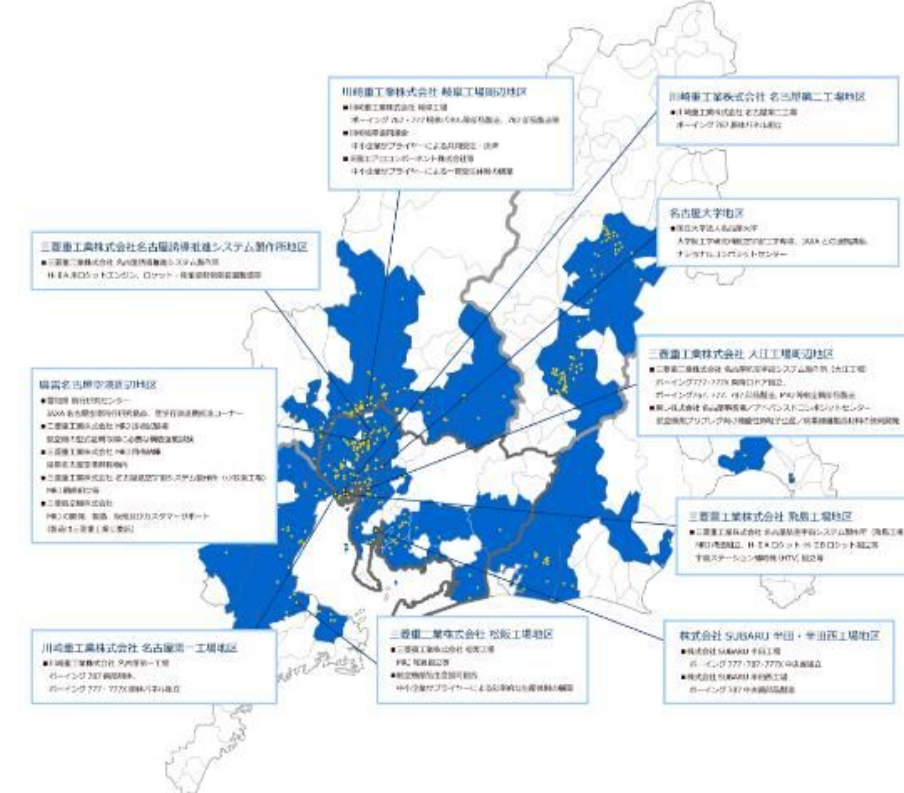
出典)中部運輸局HP



■圏域にものづくり産業を中心とした産業クラスターが広がりサプライチェーンを形成。特に西三河に自動車産業、名古屋市をはじめ愛知県、岐阜県、三重県、長野県、静岡県に航空宇宙産業の関連企業が多く集積。

●アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区

出典)アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区HPより(平成30年3月時点)



24 陸海空のインフラの充実

- 国土の中心に位置する本市周辺において、高規格道路の整備が進捗。
- また、圏域のものづくり産業を支える名古屋港や、国外との交流の玄関口となる中部国際空港を擁する。

●広域交通インフラの整備状況

名古屋環状2号線の西南部、南部区間(専用部)が2020年度に開通が予定されている。
(市内にICが2箇所設置予定)



アー 2

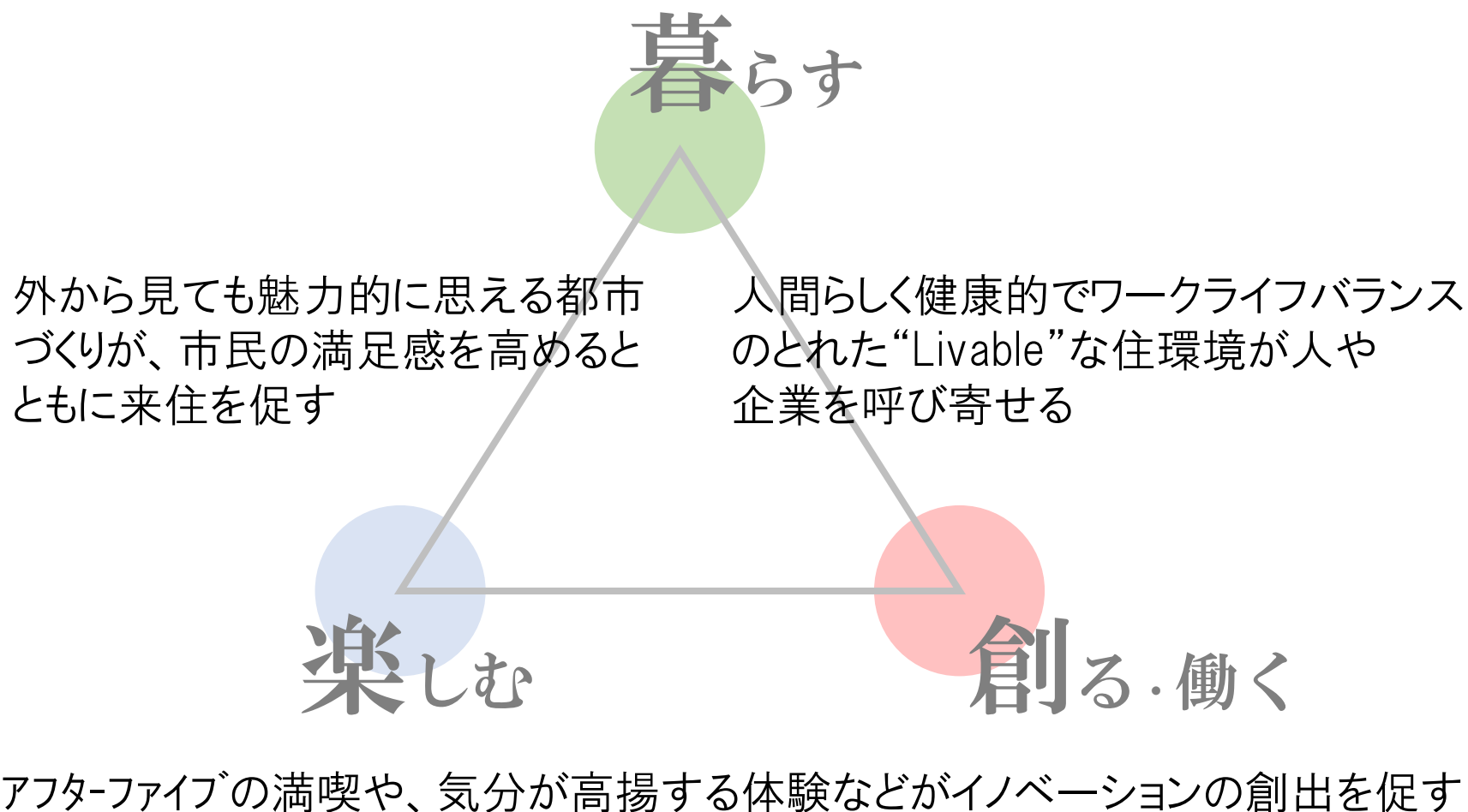
そ の 他 ア

(これまでの専門部会における検討状況)

スライド

1	次期名古屋市都市計画マスタープランについて	7～10
2	主な市を取り巻く状況	12～24
3	課題と対応	26～29
4	都市づくりの目標	31
5	将来都市構造の考え方	33～36
6	分野別の都市づくりの方針	38～41
7	将来都市構造	43～47
8	都心部のまちづくりについて	49～65

26 3つのライフスタイルの要素と相乗効果



27 暮らす（生活）

●人口減少・動態の変化

- ・人口減少により都市の活力低下が懸念され、居住と都市機能のメリハリによる活力の維持向上が必要
- ・高齢者の増加し交通弱者が増えるため、歩いて暮らせる環境づくりが必要
- ・増加する外国人居住者も快適に暮らせる環境づくりが必要

●リニア中央新幹線開業、SMR形成

- ・東京や大阪との時間距離が格段に短縮され、ライフスタイルにも影響を与えうる中、人口流出を防ぐためにも住みよい都市として魅力的な生活環境づくりが必要

●価値観や働き方等の多様化

- ・価値観やライフスタイル、働き方等の多様化がすすむ中、多様な人たちが自由に快適に生活できる寛容性のある生活環境づくりが必要

28 楽しむ（余暇・観光）

●人口減少・動態の変化

- ・主に関東への人口流出が顕著で、都市の活力低下が懸念され、都市の魅力を高め、訪れたい都市となることで、市民が誇りを感じられる都市になることが必要

●リニア中央新幹線開業、SMR形成

- ・交流が促進される中、都市としてのホスピタリティの向上が必要
- ・三大都市圏が近くなり、中部圏の存在感の低下が懸念される中、中部圏の玄関口として圏域内の連携を強化することが必要

●観光需要の高まり

- ・インバウンド需要の増加が今後も見込まれ、都市間競争が激化し、本市の相対的な地位の低下が懸念され、本市の魅力を世界に発信する好機と捉え、需要を取り入れ、本市の活力につなげていくことが必要

29 創る・働く（経済・産業）

●人口減少・動態の変化

- ・生産年齢人口の減少により、一人当たりの生産性向上や高付加価値の産業創出が必要
- ・就労目的の若い女性が特に関東へ流出する中、女性にとって魅力的な産業や職場の創出が必要

●リニア中央新幹線開業、SMR形成

- ・交流人口の拡大の中、ビジネスチャンスの成就のための環境を整備することが必要
- ・三大都市圏が近くなり、中部圏の存在感の低下が懸念される中、中部圏の中核都市としての新たな価値の創造が必要

●産業構造の転換、自動車産業の変革

- ・自動車産業にも大きな構造変化が予想される中、単一の産業への依存からの脱却のため、都市の魅力により多様で新たな価値を生む人材の呼び込みが必要

アー 2

そ の 他 ア

(これまでの専門部会における検討状況)

スライド

1	次期名古屋市都市計画マスタープランについて	7～10
2	主な市を取り巻く状況	12～24
3	課題と対応	26～29
4	都市づくりの目標	31
5	将来都市構造の考え方	33～36
6	分野別の都市づくりの方針	38～41
7	将来都市構造	43～47
8	都心部のまちづくりについて	49～65

31 都市づくりの目標

ゆとりと便利が織りなす多様で快適な生活空間

広い住宅敷地や、通勤時間の短さ、高く安定した所得水準等といった空間的・時間的・経済的ゆとりと、充実した都市基盤・施設という強みを生かしながら、健康的で人間らしく、名古屋ならではのライフスタイル空間を形成

歴史と未来の融合で磨くオンリーワンの体験空間

本市は豊富な歴史・文化資源や、魅力的な緑・水空間を有しており、中部圏に数多ある観光名所との連携の上で、名古屋の歴史と都市的魅力が融合した唯一の空間を形成

技術力と経済力で輝くグローバルな創造空間

国土の中心という地理性、陸海空の充実したインフラにより人流・物流を促し、多様な人材の集積や圏域のものづくり技術による新たな価値創造による、経済力の維持・向上に向けた空間を形成

アー 2

そ の 他 ア

(これまでの専門部会における検討状況)

スライド

1	次期名古屋市都市計画マスタープランについて	7～10
2	主な市を取り巻く状況	12～24
3	課題と対応	26～29
4	都市づくりの目標	31
5	将来都市構造の考え方	33～36
6	分野別の都市づくりの方針	38～41
7	将来都市構造	43～47
8	都心部のまちづくりについて	49～65

33 都市構造を考える上での基本的視点

都市の賑わいや活力を生むための、人・もの・情報の交流による
創造的活動を生み出す都市構造

様々な人が自由に活動できるための、自動車に頼らない、歩いて暮らせる都市構造

激甚化する自然災害に対応するための、災害リスクを考慮した都市構造

世界規模の環境問題の意識の高まりに呼応する、環境負荷の小さい都市構造

厳しい財政状況を見据えた、効率的な都市経営が可能な都市構造

大都市における

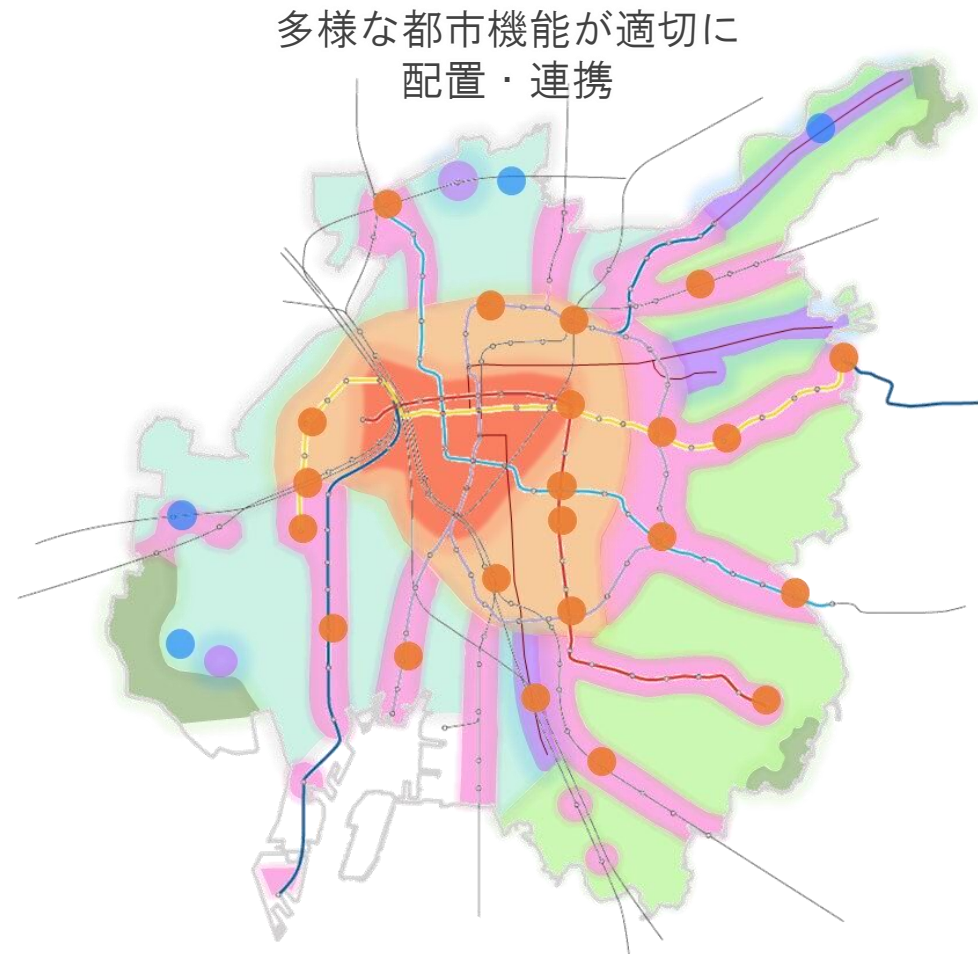
「集約連携型都市構造」

34 暮らす（生活）

（都市づくりの目標）

ゆとりと便利が織りなす多様で快適な生活空間

- 人口減少・高齢化を受け、公共交通を軸に居住と都市機能を集約。地域特性を生かし、価値観やライフスタイル等の多様性に対応した都市構造
- 大都市ならではの利便性と郊外的なゆとりを維持・向上させ、名古屋ライフスタイルを提供する空間を形成

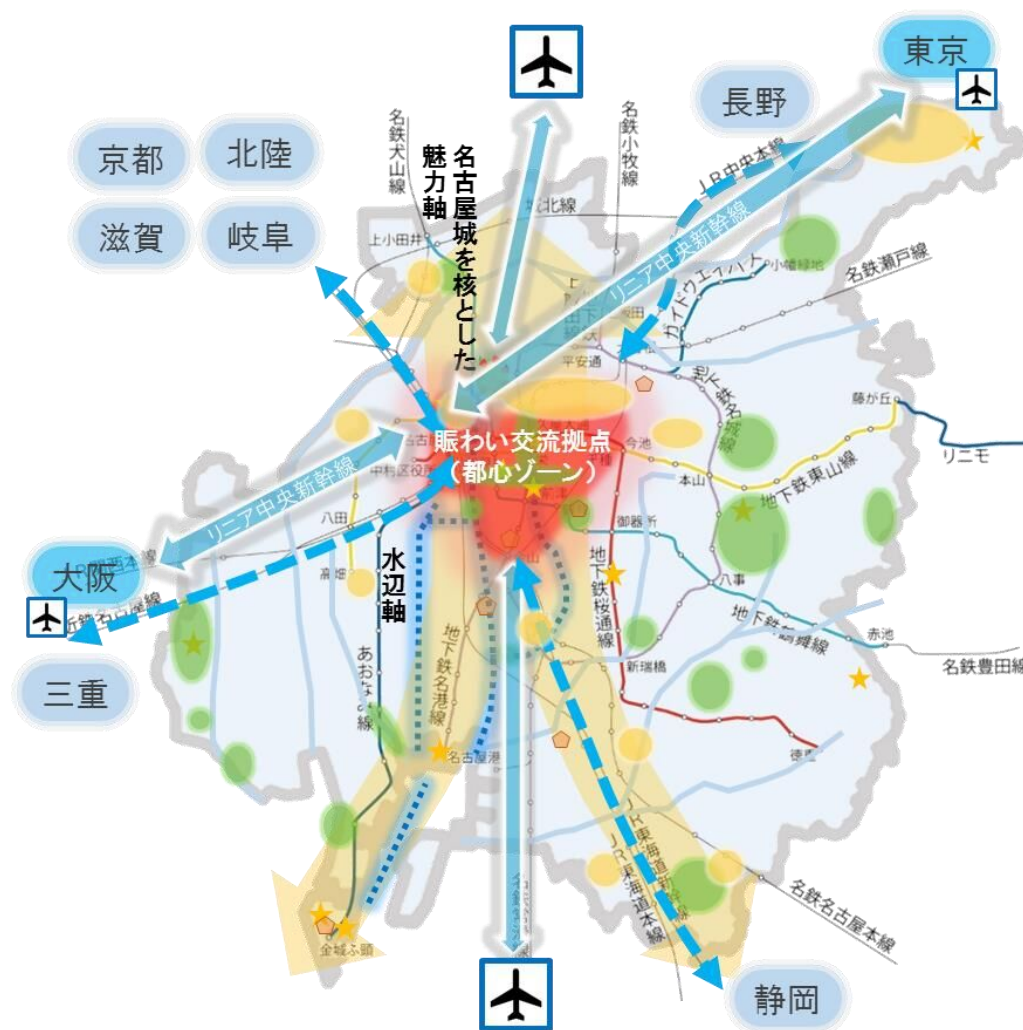


35 楽しむ（余暇・観光）

（都市づくりの目標）

歴史と未来の融合で磨くオンリーワンの体験空間

- 都心を交流賑わいの拠点とし、名古屋港へのウォーターフロント軸や、名古屋城、熱田神宮等を核に歴史軸を形成
- インバウンド増加やリニア開業、SMR形成を踏まえた、市内の魅力資源間の連携や広域的な観光連携を構築する都市構造

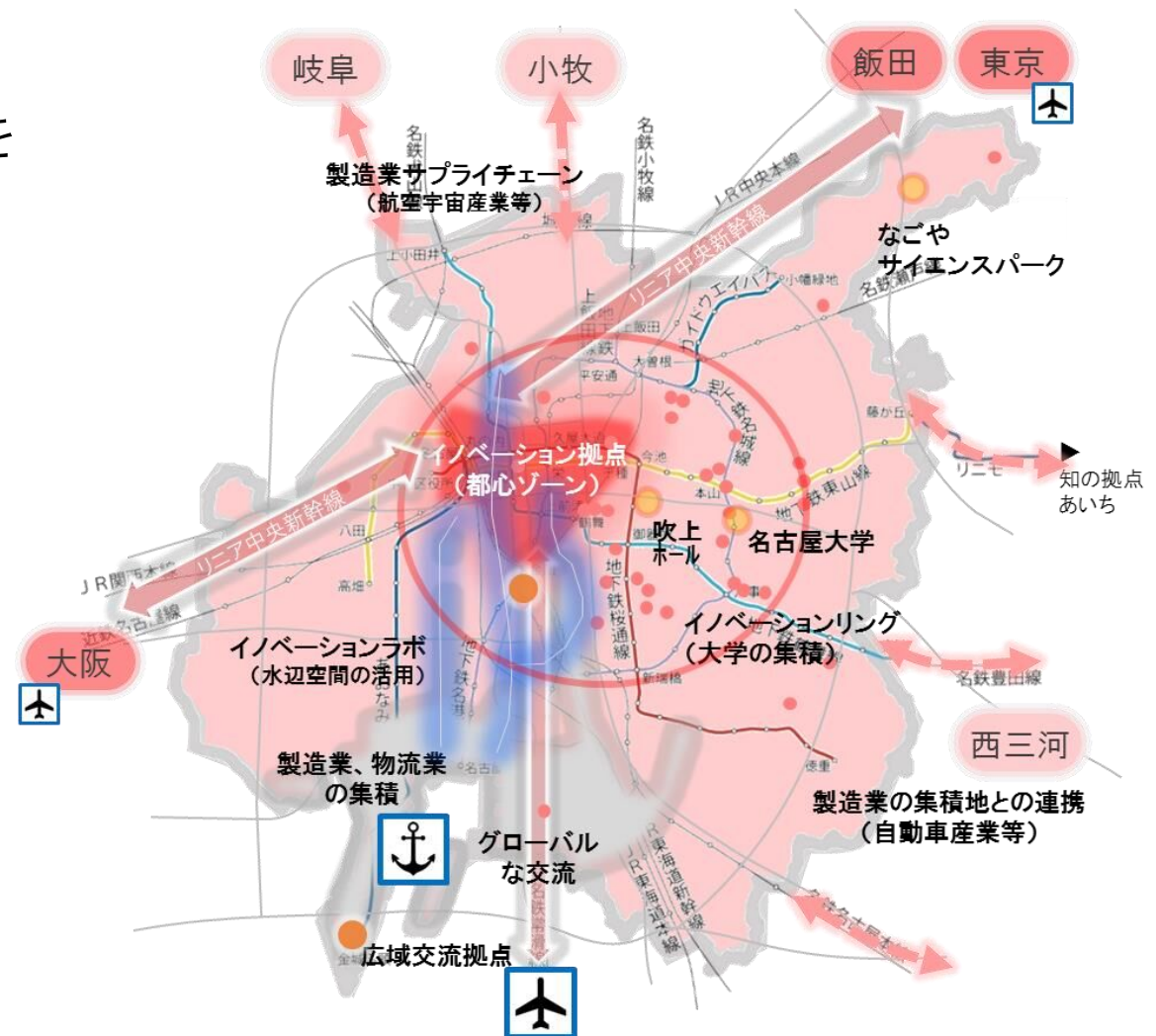


36 創る・働く（経済・産業）

（都市づくりの目標）

技術力と経済力で輝くグローバルな創造空間

- 都心を中心に、大学の集積や地域特性を生かしてイノベーションを促進する都市構造
- 国土の中心という地理性や陸海空の充実したインフラを生かし、ものづくり産業の操業環境やサプライチェーンの維持・向上、グローバルな交流を促進



ア－２

その他ア

（これまでの専門部会における検討状況）

スライド

1	次期名古屋市都市計画マスタープランについて	7～10
2	主な市を取り巻く状況	12～24
3	課題と対応	26～29
4	都市づくりの目標	31
5	将来都市構造の考え方	33～36
6	分野別の都市づくりの方針	38～41
7	将来都市構造	43～47
8	都心部のまちづくりについて	49～65

38 都市づくりの視点（分野）

土地利用・都市基盤

都市機能の土台となる土地建物の適切な利用

防災

激甚化する災害から都市活動を守る空間の形成

**低炭素
・エネルギー**

持続的で社会的価値の高い空間の形成

緑・水

健康的な都市活動を促進し風格のある空間の形成

交通

誰しものが自由に快適な移動を行える空間の形成

景観

市民の誇りとなり感性を刺激する個性ある空間の形成

39 暮らす（生活）

（都市づくりの目標）

ゆとりと便利が織りなす多様で快適な生活空間

土地利用

- 豊かな生活を支える多様な利便施設の集積（商業、医療、福祉、子育て等）
- 多様な地域特性、ライフスタイル、ライフステージに応じた住の提供
- 良質な住宅の供給、適切な利用の促進
- 生活に必要不可欠なライフライン等の充実

防災

- 木造住宅密集地域はじめ、災害に脆弱な建物、インフラの改善
- 大規模災害リスク（震災・風水害）に対応するインフラ等の整備

低炭素・エネルギー

- エネルギー効率の高い都市づくり（住宅、モビリティ）

緑・水

- 身近で安心・安全・快適な緑とオープンスペースの維持・活用
- 自然的環境の維持保全、生物多様性への配慮、水循環の確保

交通

- 人・モノのスムーズな移動のための道路交通の円滑化
- 歩いて暮らせるまちづくりのための公共交通の利用促進、道路空間再編
- 多様な交通モードの充実と使いやすさで生活を快適にする自在な移動の実現

景観

- 住民の誇り・愛着につながる都市景観の形成

40 楽しむ（余暇・観光）

（都市づくりの目標）

歴史と未来の融合で磨くオンリーワンの体験空間

土地利用

- エンタメ・文化・芸術など多様なコンテンツや活動の場の提供、来訪者の受入環境の充実、時間によって違う表情を見せる空間の演出
- 交流の舞台にふさわしい高度で三次元的な土地利用の促進

防災

- 安心して訪れることができる環境の整備

低炭素・エネルギー

- エネルギー効率の高い都市づくり（モビリティ）

緑・水

- 遊び楽しみ参加できる公園緑地の整備・活用
- 魅力的なアーバンリゾートとしてのウォーターフロントづくり
- 農地の趣味的な利用促

交通

- 多様な交通モードの充実と使いやすさで様々なコンテンツを味わえる自在な移動の実現（都心部等の回遊性の向上）
- 国内外の人の交流促進のための空港・港湾の活用

景観

- 来訪者の心に残る個性ある都市景観の形成
- 歴史を感じられるまちづくり資産の活用

41 創る・働く（経済・産業）

（都市づくりの目標）

技術力と経済力で輝くグローバルな創造空間

土地利用

- クリエイティブな交流・創造の場の創出
- グローバルなビジネス環境の形成
- 世界屈指のものづくり圏域を支える港湾機能の強化

防災

- 大規模災害リスクに対応した防災・減災（BCD）

低炭素・エネルギー

- エネルギー効率の高い都市づくり（商業・業務ビル、モビリティ）

緑・水

- 高度でクリエイティブなビジネス活動を促進するオアシス空間の創出・活用
- 農地の生業的な利用促進

交通

- 多様な交通モードの充実と使いやすさで経済活動を活性化する自在な移動の実現（リニア、乗換利便性等）
- 最先端モビリティの実装の場の整備
- 効率的な物流ネットワークの形成

景観

- 感性を刺激する、洗練され近未来的な都市景観の形成

ア－２

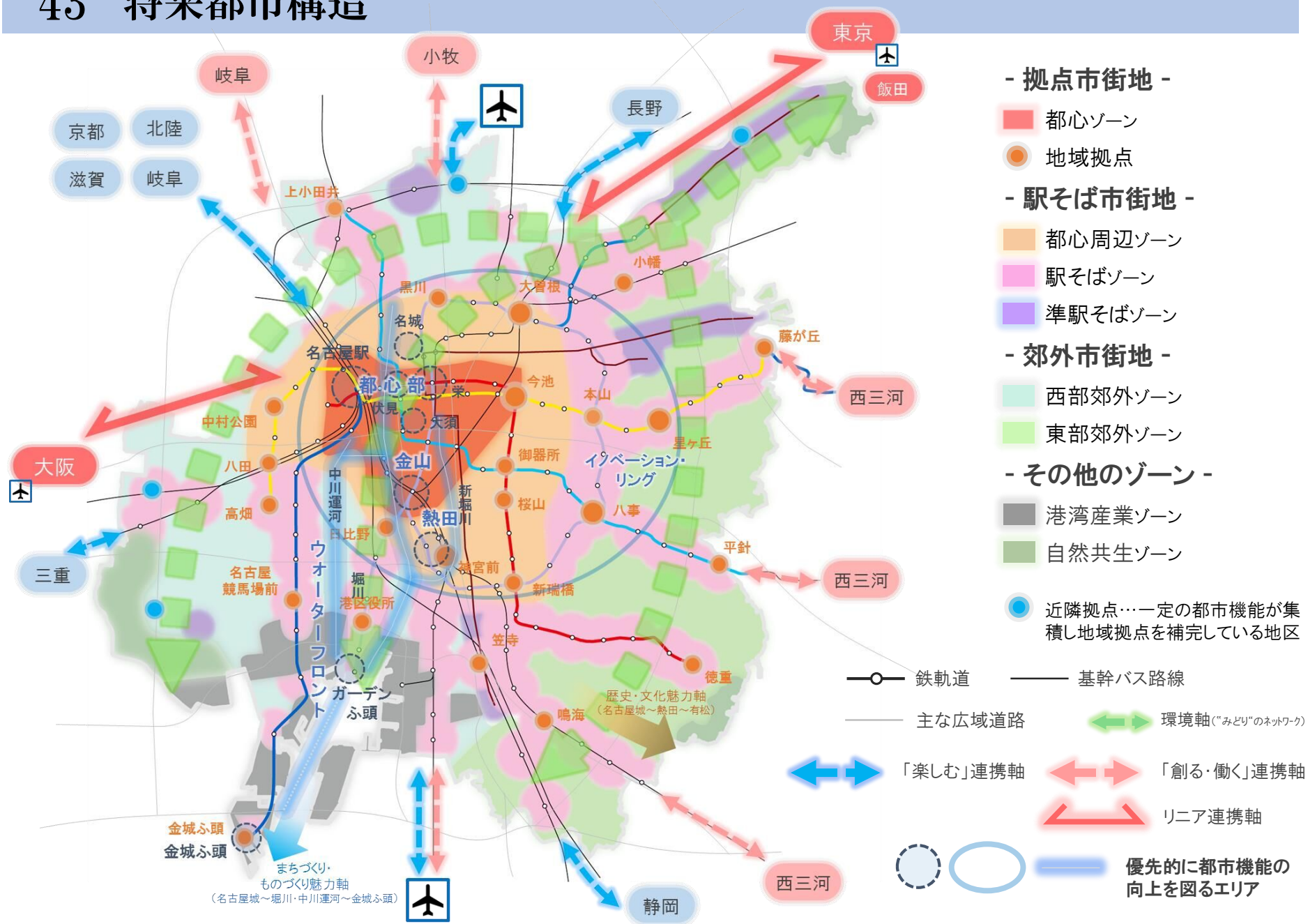
その他ア

（これまでの専門部会における検討状況）

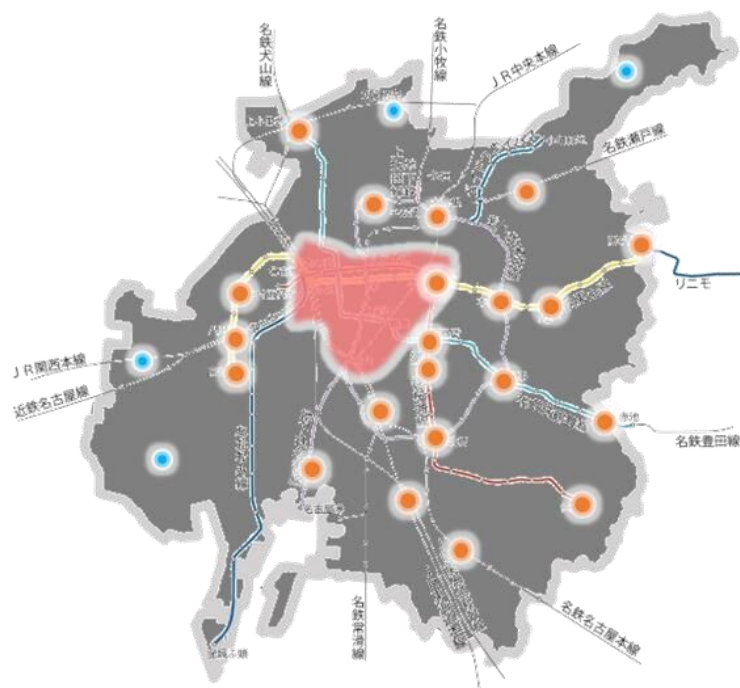
スライド

1	次期名古屋市都市計画マスタープランについて	7～10
2	主な市を取り巻く状況	12～24
3	課題と対応	26～29
4	都市づくりの目標	31
5	将来都市構造の考え方	33～36
6	分野別の都市づくりの方針	38～41
7	将来都市構造	43～47
8	都心部のまちづくりについて	49～65

43 将来都市構造



44 拠点市街地



立地適正化計画(H30.3)を踏まえ整理▶

都心ゾーン

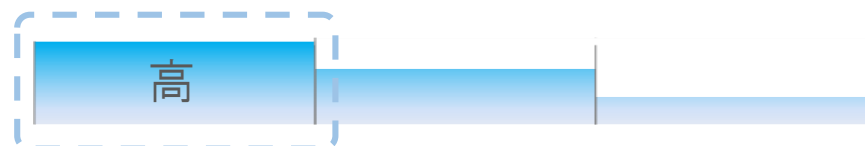
リニア中央新幹線が開通する名古屋駅を要する都心において、SMRのセンターとなる中部圏の中核としての広域交流機能を強化

魅力があふれにぎわう交流拠点

高次の都市機能が集積し、市民のみならず広域から人が集い、多様な交流活動が営まれる市街地。

都心ゾーンは、SMRのセンターとなる中部圏の中核に、地域拠点は、交通結節点等において、市内各地域の中心になる市街地。

□土地利用の密度イメージ

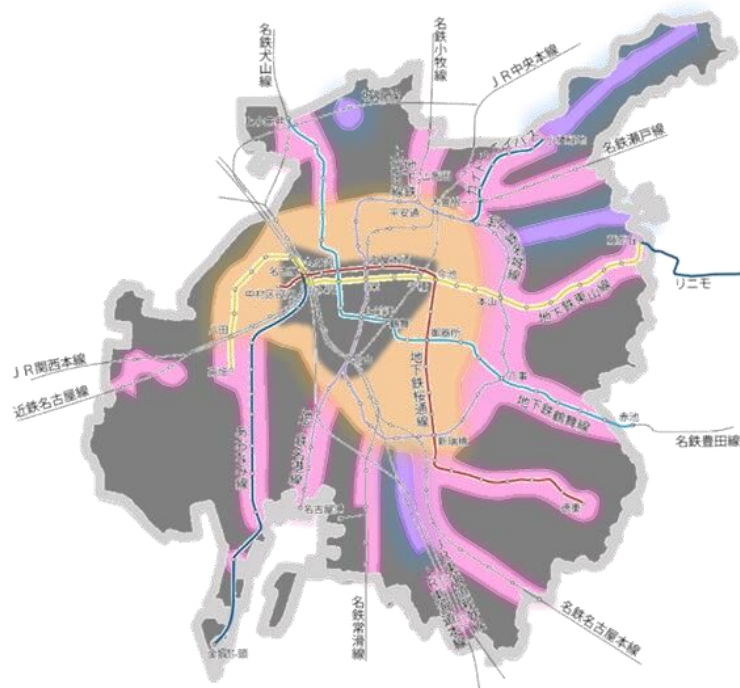


● 地域拠点

市内の主要な交通結節点等において、主に市民の生活利便性や豊かな都市活動を支えるための機能を集約

● 近隣拠点…地域拠点を補完する、支所を中心とした拠点

45 駅そば市街地



市域における
役割

快適で利便性の高い居住環境

地下鉄をはじめとした公共交通網周辺の駅そばにおいて、利便性が高く歩いて暮らせる居住環境を有する市街地。

駅そば市街地やその周辺の郊外市街地の住民のための生活利便施設が集積し、若者や高齢者をはじめ利便性を追求する居住ニーズに対応。

□土地利用の密度イメージ



都心周辺ゾーン

都心ゾーン周辺の古くに整備された市街地において、都心との近傍性等の特性を生かした再生を推進

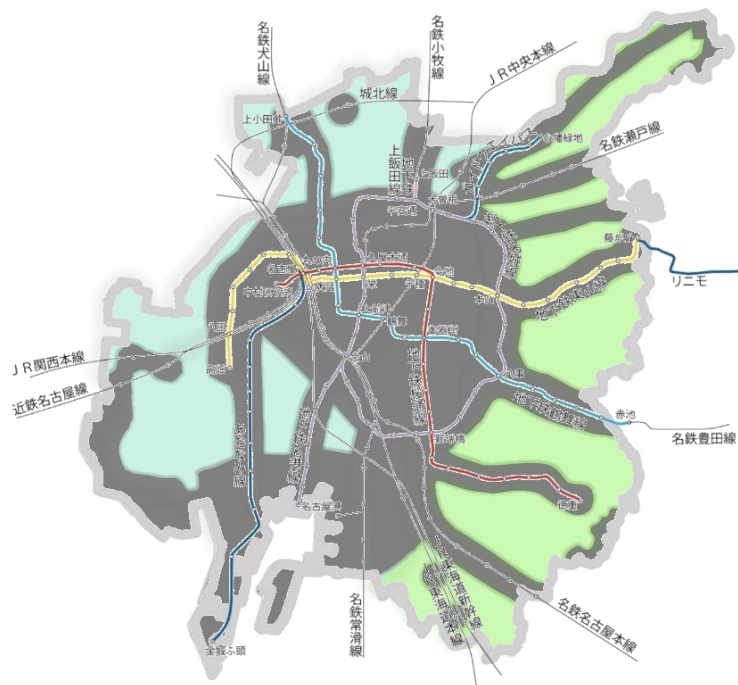
駅そばゾーン

駅を中心とした生活圏において、駅周辺やその後背圏の住民の日常生活を支える都市機能を向上

準駅そばゾーン

基幹的なバス路線等を中心とした生活圏において、利便性の高い住宅地としての機能を維持

46 郊外市街地

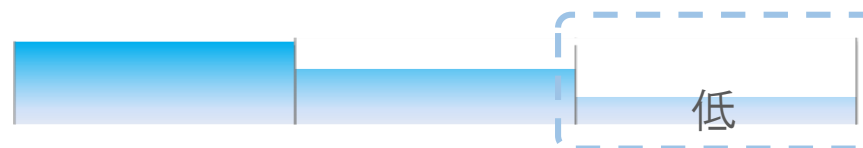
市域における
役割

「ゆとり」と「うるおい」がある居住環境

市の郊外部において、空間的なゆとりと自然豊かなうるおいがある居住環境を有する市街地。

人口減少がすすむ中でも良質で持続的な居住環境が維持され、ファミリー層を中心に多様な居住ニーズに対応。

□土地利用の密度イメージ



西部郊外ゾーン

多様な土地利用が混在した西部において、職住が近接し多様な機能が調和した生活環境を形成

東部郊外ゾーン

緑豊かで良好な風致を有する東部丘陵地において、ゆとりとうるおいのある生活環境を形成

47 その他のゾーン

市域における
役割**地域特性を生かした土地利用**

市の臨海部や豊かな自然環境が持つ特性を生かし、市の産業力の向上や、うるおいや快適性の確保に資するゾーン。

港湾産業ゾーン

名古屋港を要する臨海部を中心に、集積した製造業や物流施設の操業環境の保全や機能の更新・高度化を推進

自然共生ゾーン

市街化調整区域において、現在の豊かな自然環境を維持保全を基本としながら、都市基盤の整備状況に応じた土地利用を展開

ア－2

その他ア

（これまでの専門部会における検討状況）

スライド

1	次期名古屋市都市計画マスタープランについて	7～10
2	主な市を取り巻く状況	12～24
3	課題と対応	26～29
4	都市づくりの目標	31
5	将来都市構造の考え方	33～36
6	分野別の都市づくりの方針	38～41
7	将来都市構造	43～47
8	都心部のまちづくりについて	49～65

49 位置づけ

■次期都市計画マスタープランの都心部部分

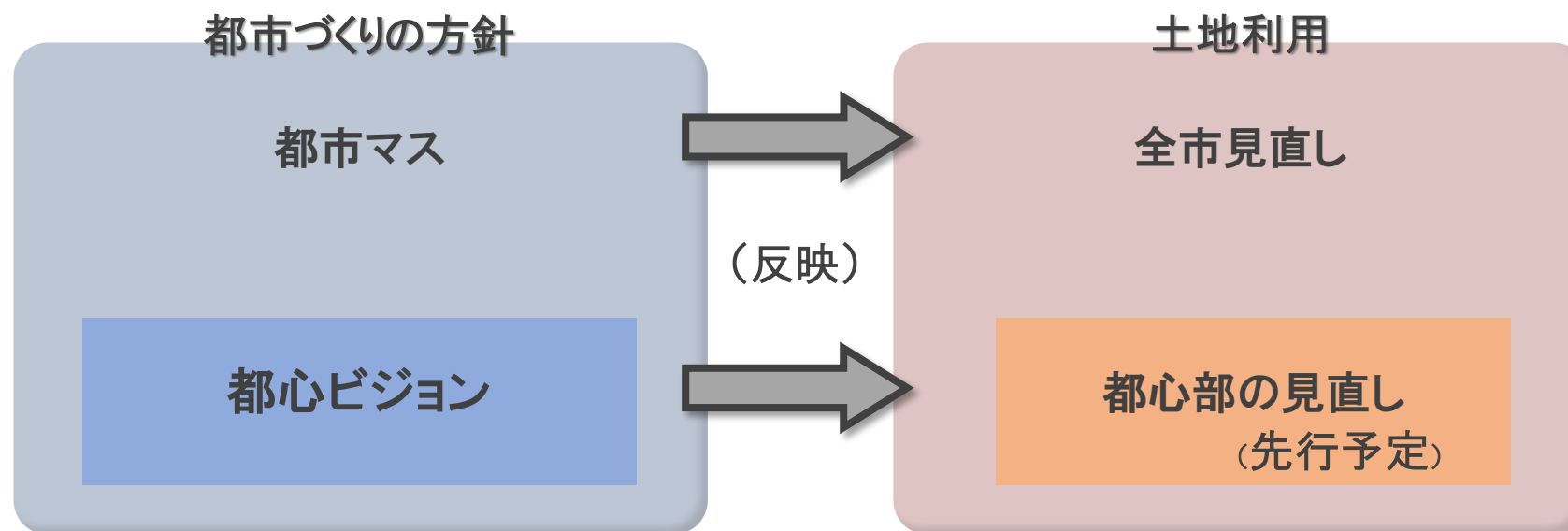
次期都市計画マスタープラン（平成32年度策定予定）の都心部部分に反映

■行政と民間で共有できる名古屋都心部の将来像

民間投資を促進することを目的として、行政と民間で共有できる名古屋都心部の将来像を提示

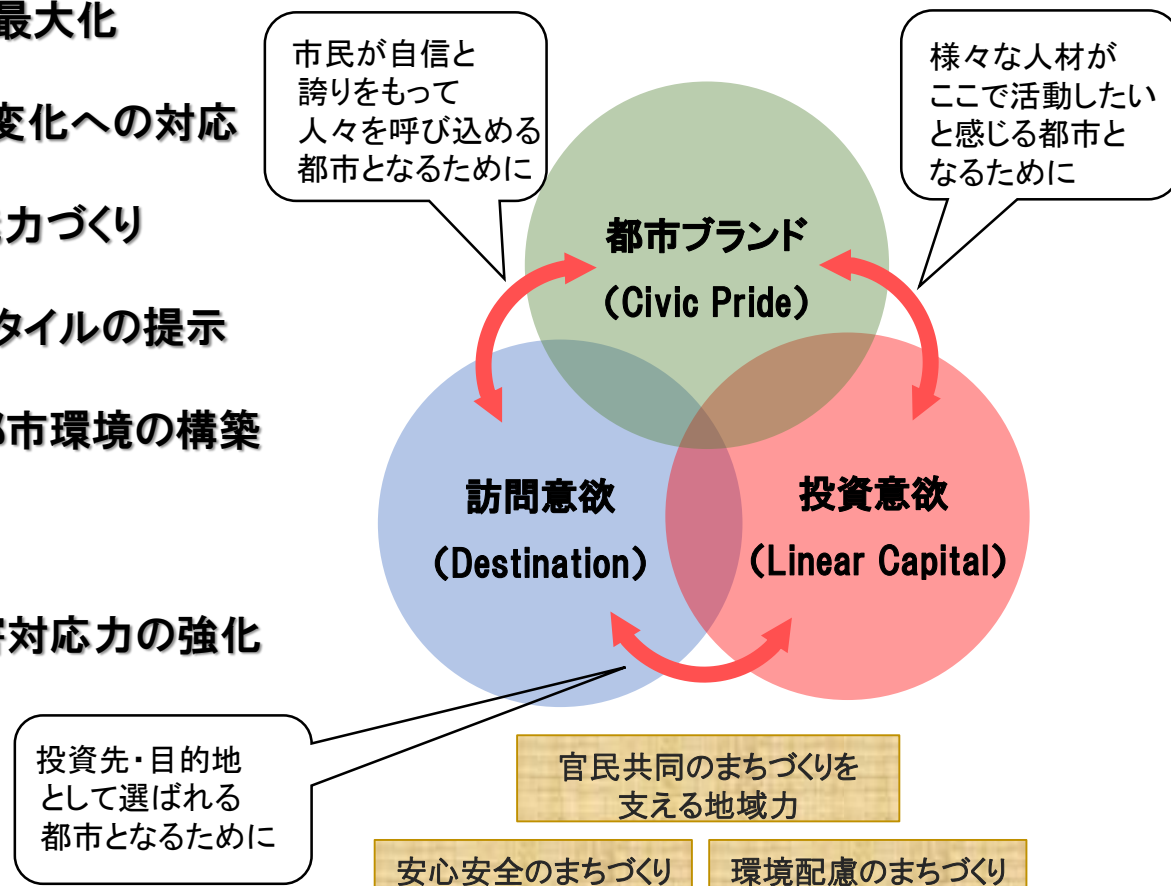
リニア中央新幹線の開業を見据え、次期都市計画マスタープランに先行して、今年度中に「都心まちづくりビジョン」として公表

都市マス、都心ビジョン、土地利用の検討概念図



50 策定の視点

1. スーパー・メガリージョン形成による効果の最大化
2. 技術革新によってもたらされる産業構造の変化への対応
3. 来訪者を増やし交流を促進させる都市の魅力づくり
4. 圏域の中核機能と調和した都市型ライフスタイルの提示
5. 多種多様な市民活動等のステージとなる都市環境の構築
6. 持続可能なまちづくりの推進
7. 大規模災害に備えた都市の防災性能・災害対応力の強化

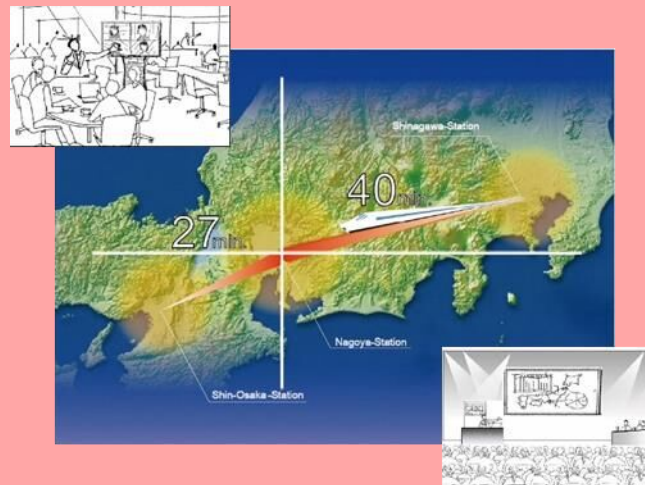


51 都心部のまちづくりの方針とまちの将来像

＜方針1＞ 国際競争力の強化と民間投資を誘発する環境整備

（将来像）世界中から多様な人々を呼び込みイノベーションを創出するまち

- リニア中央新幹線の開通により名古屋の都心と東京が40分で結ばれ、スーパーメガリージョンの中心に
- セントレアとも直結した名古屋都心は、名古屋駅を中心として大交流圏を形成
- 国内外から多種多様な職種・立場のビジネスパーソンやクリエイティブな人材が集まり、交流が促進
- 新たなアイデア・価値を生み出す人材の集積や、ベンチャー企業、研究機関等の立地が加速し、従来からの圏域の強みであるものづくり技術と結びつくことにより、イノベーションを創出
- 老朽建物の更新や災害発生時の帰宅困難者対策が推進され、災害への対応力が向上
- 名古屋都心は日本のみならず世界経済を牽引するまちへと生まれ変わる



52 都心部のまちづくりの方針とまちの将来像

＜方針2＞ 訪れたくなるまちを実現する都市魅力の向上

（将来像）快適な都市空間に訪れる人々の賑わいが広がるまち

- 再生された久屋大通公園では様々なイベントが開催され、国内外から多くの人々が栄地区を来訪
- 道路空間が歩いて楽しい歩行者優先のみちへと再配分され、環境にやさしい快適なまちになるとともに、名古屋都心を訪れる人々の賑わいがまち全体に展開
- 安全で快適な地下街を形成し、周辺のビルと接続することにより、地上と地下が連続した立体的な賑わいを創出
- インバウンド需要から国際会議まで対応できる様々なグレードのホテルが立地
- 利便性の高い新たなモビリティの導入や、自転車利用環境の向上により、都心の回遊性が向上
- 名古屋城などの歴史資産、劇場や美術館などの文化施設、人気の名古屋めしなど、名古屋ならではの魅力を味わいつくせる都心へと変貌



53 都心部のまちづくりの方針とまちの将来像

＜方針3＞ 利便性とゆとりが両立した名古屋ライフスタイルの実現

（将来像） ゆとりを楽しむ名古屋ならではの洗練された都市生活を満喫するまち

- ユニバーサルデザインの推進などにより道路・公園などの公共的空間が一層洗練された空間として再編・創出され、エリアマネジメント活動など様々な市民活動が活発化するとともに、世代間の交流も促進
- 誰もが自分らしく生活・活動できる、様々な価値観やライフスタイル等を受け入れる多様性のある都市を構築
- 緑溢れる大規模公園や堀川・中川運河などの水辺空間では、多くの市民がゆったりとした時間を満喫
- 市民にとってのハレの場となる高級ブランド店や美しい夜景を楽しめる三ツ星レストランなど、都心ならではの商業施設が集積
- 利便性とゆとりを楽しむ「名古屋ライフスタイル」がより一層洗練されることで、都市生活の理想像を名古屋の都心が実現



54 都心の都市構造



都心部 土地の高度利用や都市機能の更新、イノベーションの創出を図ると同時に、那古野地区の四間道をはじめとする個性的な界隈においては、景観や地区の特性をしっかりと保全することにより、名古屋ならではの多様性ある中心市街地の形成を図る。

拠点 地域の特性を活かしたまちづくりを行うことにより、地区の名称を聞けば名古屋のまちの姿がイメージできるようなまちを目指す。名古屋駅周辺地区、伏見地区、栄地区においては、特に重点的に民間投資の誘導を図る。

都市軸 沿道・沿線の低層階の店舗化、オープンカフェなどの公共空間の活用、ウォーカブルな道路への空間再編、緑陰をつくる街路樹、良好な都市景観の形成等により、人の流れを生み出し都心各所を結び付けることにより、都市の賑わいの創出を目指す。

拠点連携 拠点間における複合的なまちづくり施策の展開によって都市の多様性や回遊性を高め、都市機能を相乗的に向上させるとともに、快適に移動できる交通手段も用意することにより、全ての来街者にとって巡ってみたいくなるまちの実現を目指す。

都心ゾーン 広域交通の結節点としてのゲート性の演出、特色ある都心界隈の保全や都心居住による職住近接の推進、地域まちづくり活動の支援など、市域の中心部にふさわしい多様性のあるまちづくりを進める。

55 拠点のまちづくり

名城地区 ～ 歴史と文化に彩られた名古屋のまちづくりの礎 ～

連携



補完

名古屋駅地区 ～ 未来を体感し創造する交流のターミナル ～

連携



補完

伏見地区 ～ 職・住・遊のプラットフォーム ～

連携



補完

栄地区 ～ 訪れる人々が心を解き放つ都心のオアシス ～

連携



補完

大須地区 ～ 下町情緒とポップが交錯する庶民文化の象徴 ～

金山地区 ～ 交通拠点から交流拠点へ ～

エリアマネジメントの支援、防災・環境への配慮・開発と保全のバランス、
イノベーション拠点の形成

56 拠点のまちづくり

名古屋駅地区 ～ 未来を体感し創造する交流のターミナル ～

- ① 国内外から来訪する人々を迎え入れるターミナル駅をつくり、駅周辺の総合交通結節機能の充実と再編を図ることで、約7,000万人交流圏の交通拠点を形成します
- ② スーパー・メガリージョンの中心にふさわしい、多種多様な人材の交流を促進し、日本を支える新たな価値を生み出す、国際的・広域的な拠点・顔を形成します
- ③ 魅力ある地域資源を活かした多彩なまちをつくり、相互につなぐことで一体性のある、歩きたくなるまちを形成します



・エリアマネジメントの支援、防災・環境への配慮・開発と保全のバランス、イノベーション拠点の形成

57 拠点のまちづくり

栄地区 ～ 訪れる人々が心を解き放つ都心のオアシス ～

- ① 大規模公園をはじめとした公共空間を洗練されたゆとりあるシンボル空間として再生・活用することにより、エリアの賑わいを都心全体に広げます
- ② 民間再開発の機会を捉え、様々な楽しみ方や働き方を提供する商業・娯楽・芸術・文化施設等や、オフィス等の都市機能を集積し、多様な人材が集まる環境整備を推進します
- ③ エリアごとの様々な特色を活かした多様性のあるまちづくりを進めることにより、名古屋らしさを感じられる都心の魅力を向上します



・エリアマネジメントの支援、防災・環境への配慮・開発と保全のバランス、イノベーション拠点の形成

58 拠点のまちづくり

伏見地区 ～ 職・住・遊のプラットフォーム ～

- ① リノベーションなどにより、意欲ある起業者の創業を促進し、業務機能が集積している従来からの地区の特性をより一層発展させます
- ② 芸術・文化施設、公園の緑や水辺空間、歴史的建築物などによって醸し出される芸術的・文化的な雰囲気を活かしたまちづくりを進めます
- ③ 良好な民間再開発の促進により、様々な都市機能と調和した都心居住を実現するとともに、地域住民によるまちづくり活動を支援します



・エリアマネジメントの支援、防災・環境への配慮・開発と保全のバランス・イノベーション拠点の形成

59 拠点のまちづくり

名城地区 ～歴史と文化に彩られた名古屋のまちづくりの礎～

- ① 名古屋のまちづくりの礎たる歴史・文化遺産を、様々な形でまちづくりに活用することにより、奥行きと多様性のある都市の姿を実現します
- ② 他の拠点との連携を強化することにより、観光拠点の賑わいを都心全体に広げることによって、都市の回遊性を向上させます



60 拠点のまちづくり

大須地区 ～ 下町情緒とポップが交錯する庶民文化の象徴 ～

- ① 大須観音や万松寺などの歴史的な資源と古着屋などの個性的な店舗の集積した商店街の情緒を大切にすることで、都心の魅力に多様性と彩りを添えます
- ② コスプレや大道芸など「ポップカルチャーの聖地ナゴヤ」としてのブランド確立を推進することにより、国内外から訪れる老若男女誰もが集い楽しめるまちの雰囲気醸成します



・エリアマネジメントの支援、防災・環境への配慮・開発と保全のバランス、イノベーション拠点の形成

61 拠点のまちづくり

金山地区 ～ 交通拠点から交流拠点へ ～

これまでに培われてきた文化芸術の機能に加え、商業、オフィス、宿泊などの都市機能の充実を図ることで、多種多様な交流によるにぎわいあふれるまちを形成します



・エリアマネジメントの支援、防災・環境への配慮・開発と保全のバランス、イノベーション拠点の形成

62 都市軸のまちづくり

幹線道路と沿道のまちづくり

名古屋都心のシンボリックな通りを人に優しく歩いて
楽しいみちへ道路空間の再配分

沿道の民有地と一体となった快適な都市空間の整備
による賑わいが連続した街並みの形成

- 自動車の都心部への集中緩和
- 低層階の店舗化 など



河川・運河沿岸のまちづくり

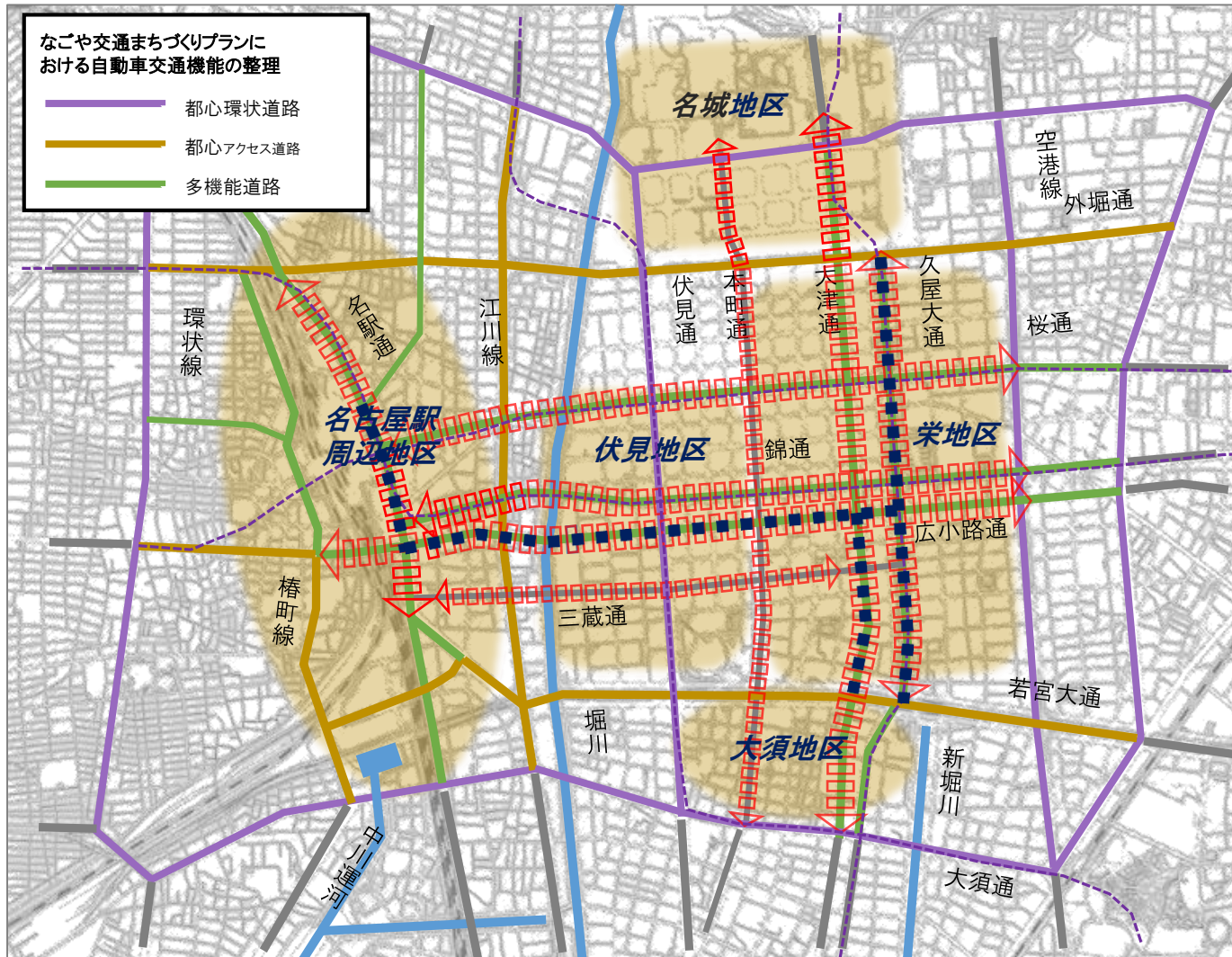
堀川・中川運河などの環境整備・水辺空間の魅力
向上

- 河川・運河側に向けた店舗配置
- 水質の浄化による環境向上 など



都市軸のまちづくりの推進により、各拠点の賑わいを都心部内に展開し、都心部
内の各エリアを結びつけることで名古屋の都心部を一体的な構造へ

63 都市軸のまちづくり



個性的で多様性ある都心部を実現するための
主たる都市軸の将来像

賑わい交流軸

- 広小路通 ～名古屋都心を象徴する東西軸～
- 名駅通 ～名古屋の顔となる駅前の交流軸～
- 久屋大通 ～緑豊かな開放感溢れる南北軸～
- 大津通 ～トレンドの先端をゆく魅力発信軸～

- 桜通 ～ターミナル駅の正面に位置する景観軸～
- 本町通 ～名古屋城下町の歴史を辿る回遊軸～
- 三蔵通 ～起業意欲と感性を刺激する創造軸～

水辺空間軸

- 堀川・中川運河 ～都心の水の賑わい軸～

■■■■■■■■ 賑わい交流軸
(名古屋交通まちづくりプラン)

◁■■■■■■■■▷ 個性を活かした沿道のまちづくりを
進める幹線道路

64 都心界限と拠点連携のまちづくり

拠点連携のまちづくり

各拠点の持つ機能を有機的に結びつけることで都心部内の回遊性を高めるとともに、都心全体の都市機能を相乗的に向上

あわせて、歩きやすい道路整備に加え、既存の公共交通の利便性向上、新たな路面公共交通システム等により、手軽に利用できる移動手段を確保



分断要素の解消



地域資源の活用

拠点



拠点



都市の多様性・回遊性を向上

都市機能を相乗的に向上



界限の魅力向上

都心界限のまちづくり

都心界限は、各拠点や幹線道路沿道に比べると比較的低利用ながら、歴史性や下町の風情など独自の個性・魅力を保全・開拓することで、都市の多様性を向上

あわせて、エリアマネジメント等の地域のまちづくりを積極的に支援

65 都心界隈と拠点連携のまちづくり

